2008年8月号　vol.195

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

特集 兵庫医科大学篠山病院

■篠山病院の運営と整備に係る基本協定締結　■理事長メッセージ「兵庫医科大学篠山病院再生のための基本コンセプト」

07 最近の主な出来事

＜兵庫医科大学＞

09 学長メッセージ「座談会」
11 平成20年度科学研究費補助金交付決定
15 平成21年度医学部入学試験／大学院入学試験概要
16 名誉教授就任／汕頭大学からの表敬訪問／平成19年度兵庫医科大学大学院生学術賞決定
17 ベストティーチャー賞受賞式／学位授与
18 コロンビア大学病院での実習を終えて

＜兵庫医科大学病院＞

19 病院長メッセージ「平成19年度病院運営実績と今後」
20 航空搬送／第8回地域医療懇談会／第5回神戸メディカルラリー優勝

＜兵庫医療大学＞

21 学長メッセージ「座談会」
23 平成20年度科学研究費補助金交付決定
24 オープンキャンパス
25 平成21年度入学試験概要
26 保護者懇談会《案内》／学生相談室主催イベント
27 看護学部特別講義／地域交流プロジェクト

＜学校法人兵庫医科大学＞

28 規程等の制定・改正
29 平成19年度決算について
31 平成19年度経常費補助金交付決定
32 兵庫医療大学のための募金状況報告
33 兵庫医療大学体育館建設工事着工／運動・動作解析システムお披露目
34 卒業生紹介
～辻　洋子さん（兵庫医科大学 第17期生）～
35 職場リポート
～兵庫医科大学病院　リハビリテーション部／兵庫医科大学病院　中央手術部／兵庫医療大学　リハビリテーション学部～
38 Join us! ー課外活動紹介ー
～兵庫医科大学 アメリカンフットボール部・空手道部／兵庫医療大学 水泳部・天文サークル～
40 新聞掲載記事

篠山病院の運営と整備に係る基本協定締結

基本協定の調印式が行われました

平成20年7月14日、篠山病院の10年間の存続を定めた基本協定書の調印式が、神戸市の兵庫県公館において行われ、井戸敏三兵庫県知事、酒井隆明篠山市長と本学の新家理事長が協定書に署名しました。

井戸兵庫県知事
『丹波医療圏域での課題の一つが解決しました。今後は、柏原病院、柏原赤十字病院、兵庫医科大学の適切な協力を構築していくことが不可欠です。』

新家理事長
『篠山病院の存続を決意したからには、市民の皆様、医師、医療従事者にとって魅力ある病院へと発展するため努力致します。一方、地域医療の充実のためには、行政による効果的な施策が不可欠です。兵庫県主導による、地域医療機関の役割分担、連携体制の早期の確立が必須です。』

酒井篠山市長
『市民を代表して心から感謝いたします。医大には丹波地域の中核医療を担っていただき、また、篠山に残って良かったと思っていただけるよう信頼関係を築きたいと思います。』

篠山病院の存続について

病院建設、医療機器整備、運営補助に国・県・市からの公的な支援を受け、本学篠山病院の存続が決定

飯田理事
（篠山病院問題担当）

平成19年2月に就任した篠山市の酒井新市長から、厳しい財政再建の中ではあるが、篠山市の再建には医療と教育が不可欠との方針のもと、中断していた本学篠山病院存続の為の交渉再開の申し入れがありました。次いで兵庫県からも地域医療崩壊を食い止める為、県・市・医科大学による三者協議再開への協力要請があり、本学法人は平成19年5月を期して約1年間にわたる厳しい協議を続けました。その結果、平成20年6月23日、本学理事会は評議員会の同意のもと、兵庫県を立会人とする篠山市と本学法人間の基本協定書に関する兵庫県調停案を承認するに至り、篠山病院の存続が決定しました。

10年前に国から移譲を受けた経緯

11年前の平成9年10月、本学は民間第1号として国から篠山病院の移譲を受けました。篠山市への進出は、県内の地域医療の一翼を担って欲しいとの県からの強い要望があったことが事の始まりです。また、当時の篠山町長から隣接地1万坪の無償提供と運営などにおける救急医療の赤字補填など、財政の許す範囲で可能な限りの協力を行うとの誘致条件が提示されました。多紀郡の人口6万人漸増構想についても力強く述べられ、篠山病院存続を検討してもらいたいと強く要望されました。一方、本学法人は、多紀郡の人口高齢化に着目し、篠山キャンパスを来るべき高齢化社会を想定した加齢医学をテーマとした教育・研究・診療の実践の場とする将来構想の検討に入りました。病院（一部療養病棟）・リハビリテーションセンター・老人保健施設等を一体的に整備し、経営安定化の後、次に加齢医学研究所・コメディカルの教育施設も併設する高齢化社会において特色のある総合施設とし、西宮キャンパスでは実現化の困難な地域医療を当地で補完する計画をまとめました。経営的には安定的な収益が期待できる老健収支で病院収支をサポートし、キャンパス単位で一定の継続可能な収支バランスを計ることとして、篠山進出に踏み切りました。

故 永井前理事長　継承式

開設後、三者協議再開までの経緯

病院開設後は、早期に経営安定化を図るべく積極的に投資を行い、患者数も増加し、5年間の国からの運営費補助を受けながらも着実に収支の改善が進んでおりました。しかし、開設5年目、ちょうど国の運営費補助が終了する平成14年、診療報酬改定がマイナスに転じるという事態に至って、収支は一挙に悪化しました。篠山病院の維持が独力では困難となると見た故永井前理事長は篠山市に対し、旧多紀郡が約束していた運営面での赤字補填の協力について要請を行いました。更には、平成15年6月新家理事長就任にあたり、篠山市前市長に対し、地域医療を守るための応分の地元負担の要請を重ねて行いましたが、誠意ある対応は得られませんでした。これ以上赤字経営を本学単独で継続することは私学である学内の理解と協力を得られるものではありませんでした。そこで、国有財産譲渡契約（平成9.9.24付）に規定された10年間の指定期間満了を迎える節目にあたっては、存続可能な条件が整わないときには撤退せざるを得ない旨を通告しました。実際、学内外の医師・看護師の不足は極めて深刻で、病院建物や医療機器の老朽化も限界に達しており、地元の誠意ある理解と協力も無くなった以上、全学一体となって財政基盤充実に取組んでいる中では、敢えてこれ以上独力で赤字を出してまで存続させていくことは最早できないというのが、学内の大勢の考え方となっておりました。市は県に調停を依頼し、繰り返し三者協議が行われましたが進展せず、平成18年末、一旦協議は打ち切られました。

三者協議再開からの経緯

平成19年2月に就任した酒井篠山新市長と県からの申し入れにより、同5月14日から再開された三者協議には、新たに教授会メンバーも加えた篠山問題検討委員会を設置して、あくまでも存続に必要な条件が整わなければ、存続はありえないという方針で臨みました。本学法人は篠山市の財政再建にも配慮し、複数提案を行いましたが、県・市はあくまでも本学法人による存続を強く要請し、最後まで支援策強化のみが協議の対象となりました。最終的には三者協議に齋藤副知事が出席し、病院建設・医療機器更新等設備投資に係る事業費35.52億円に対し、国5.76億円、兵庫県6.06億円、篠山市19.4億円の計31.22億円の補助、及び運営費補助　最大年額1.8億円（うち、9千万円は市の救急診療体制における診療時間外救急負担割合に応じて支給される）を受けることを骨子とする三者合意が成立することとなりました。

三者協議を終えて

本学法人の中期資金計画上のシミュレーションを経て、新篠山病院の建設、医療機器の更新、運営費補助による存続への取り組みの見通しが立ちました。存続への一定の条件が整った以上、一日も早い赤字経営からの脱却と医科大学として担うべき社会的使命としての地域医療への貢献を目指して新たな体制を整えなければなりません。そのため、本学法人は直ちに篠山病院再生委員会を立ち上げ、理事長により示された「篠山病院再生のための基本コンセプト」（後述）を受けた計画の具体化を進めます。皆さんのご協力をよろしくお願いします。

協定書に調印後、握手を交わす酒井・篠山市長、井戸・兵庫県知事、新家理事長（左から）7月14日、神戸市の兵庫県公館にて

■協定の主な内容

○病院の位置づけ
篠山病院は市の中核的な病院として運営・整備し、地域全体の医療提供体制の向上に寄与するよう努める。

○病院の整備・運営
篠山病院の建物は老朽化しているため、兵庫医科大学が、篠山市等の補助を受け、速やかに病院の新築に着手する。また、病院の運営に当たっては、篠山市が運営費の一部を補助する。

○診療体制
篠山病院においては、内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、小児科、放射線科及び麻酔科の存続と充実に努める。

○救急医療体制
兵庫医科大学は篠山病院において、篠山市の24時間365日の救急医療体制の中で、可能な範囲で最大限の負担を負い、中核的な役割を担うべく努める。

○協定期間
協定締結の日から10年間とし、その後は、医療情勢の変化等を踏まえ、県の立会のもと市と兵庫医科大学とで協議のうえ、決定する。

兵庫医科大学 篠山病院 10年間の歩み

平成9年10月
国立篠山病院より経営移譲を受け、本学初の分院として再スタート（民間第1号）

平成11年6月
兵庫医科大学リハビリテーションセンター開設

平成11年9月
兵庫医科大学ささやま老人保健施設開設

平成19年9月
国有財産譲渡契約に規定された10年経過

平成20年6月
臨時評議員会における同意を経て臨時理事会は兵庫県を立会人とする篠山市と本学法人間の「兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定書」に関する兵庫県調停案を承認

平成20年7月
兵庫県公館において篠山病院存続に関する調印式締結

兵庫医科大学篠山病院 再生のための基本コンセプト

学校法人兵庫医科大学　　理事長　新 家 荘 平

1.篠山病院移譲後10年間の経緯

1）国、兵庫県、篠山市よりの強い要望

当初、市と市民は国立病院存続を望んだが、やがてそれは国の統廃合の基本方針により不可能となり、兵庫医科大学に対する移譲受諾の要望となった。

経営面でその受け入れは可也り疑問視されたが、国からの有利な移譲条件や運営費補助金提供、人口増加予定、福知山線複線化、医師過剰時代到来等を勘案し、今後の経営についての一応の見通しも立ち受諾。

2）以後10年間収支赤字続く

収支赤字累計7.8億円（H9.10月～H20.3月）

なお、国立病院再編補助金を除くと赤字は17.3億円となる。

3）全国的な公立病院の慢性的な赤字状況に鑑みて、一応市民病院的役割を演じている本学に対して、それ相応の支援を市に度々申し入れたが、市の反応は皆無であった。元国立病院時代の医療は国が守ってくれるという安直な意識は容易に是正されなかった。

4）昨年、国有財産移譲に伴う義務年限の10年が過ぎ、累積赤字が続く今後の病院運営について本学の対応が問われることとなる。

2.本学の今後の運営方針の策定

今回の篠山病院問題の当初から、収支赤字の改善見通しが立たない場合には存続はありえないという基本的スタンスをとりながらも「存続」の可能性に向けて、県、市と協議を重ねた。しかし、財政の厳しい県、市が提示する限られた支援の枠内での存続要求に対して、本学は容易には対応しえず、最終的に次の2つの方針案を作成し、教授会で報告の上、評議員会・理事会の承認を得て、二者択一の作業に入った。

1）案―1

本学が今後も篠山病院をこれまで通りに経営していくには財政面、運営面で極めて厳しい状況が招来されるのは明らかであり、本学による篠山病院の経営を断念し、経営・運営面で優れた実績と戦略を持つ特定の医療法人に病院を移譲し、市の医療体制の確保を図ろうという案である。

この案では県や市からの補助を必要としないので、財政難にあえぐ県・市にとっては極めて有利な内容と思われるが、県も市もこの案については当初から全く理解を示さず、本学による篠山病院の継続に固執した。市の医師会や自治会も市長の方針に同調しているように思われた。このような状況の中、本学としてもこれを優先的に選択し、県や市の反対を押し切って強行することは必ずしも好ましい方策とは考えられず、案―2と並列させて俎上にあげ、県や市の理解をうるべく努めながら本学の組織の決定を待つこととした。

2）案―2

当初、県、市と本学の協議の結果、国、県と市からの補助（それぞれ5.76億、3.06億と15.4億）と、本学の13.3億の支出によって新病院を建設、病院再建後は10年間にわたり市が毎年1.8億の運営費を負担するといった県主導の協定案が作成されたが、本学内においては、これまでのスタンスは変わらず、同案に対する合意は形成されず、その締結には至らなかった。本来、地方における地域医療の健全化は行政の責任ともいえるが本学は医科大学として担うべき社会的使命、特に危機的状況に陥っている地域医療への貢献、近年国が重視している地域医療あるいはGP育成のための医療教育機関としての存在意義のみならず、撤退によってもたらされる本学の社会的評価の低下や様々なマイナスの観点からの論議も重ね、結論として、国、県、市から提示されている24億の補助に更に10億の上積みがあれば、本学は3億3千万の負担となるが、これを本学の支出の限度額として容認し、存続に向かって努力する方針を打出した。

以上の2案は、いずれも教授会への説明も経て、評議員会、理事会において承認されたものであるが、その後新しく設置された篠山問題検討委員会の判断を受けて、この案―2を優先的に順位付けして、その具体案の作成を推進することとし、もし10億の増額が認められず、また学内での充分な合意が得られなければ、たとえ県や市の理解が得られなくても、先の案―1にスイッチせざるを得ないと結論付けた。

3.優先した案−2の立脚点と問題点

本学は、過去10年間にわたって、公立病院の代行とも言うべき位置付けで篠山市の地域医療に貢献してきたが、その間多額の出費を強いられてきた。

また、その間、厳しい医師不足や医師偏在の時代といわれながら、各診療科に最低限の医師を配置、産婦人科、小児科の診療をも確保し続け、救急医療にも相応に対応してきた。これらの貢献に対して、県や市からは一切の支援がなく、充分な評価さえ受けてこなかったが、本学としては、今後、行政がこれまでの反省の上に立ち、本学の存続を求めて相応の支援に踏み切るならば、経営・運営面での許容の範囲内でこのような社会の公器としての役割を果たし続けていこうと考えるのがこの案の趣旨である。建学の精神は単なる飾り物ではないからである。

したがって、このような状況の中で、本学自身が持つ医育機関としての本来の理念あるいは使命感を貫くためにも、また、社会的な負の評価を避けるためにも、本学が行政からの支援の元に、自らの手になる病院再生を果たすことが最善の方策であると考えられるが、新病院のリニューアルの費用や、その後の長期的な健全経営と安定した人材確保の両面にわたる確かな見通しが無ければ、それは安直な理想論に終わり、次世代への大きな負の遺産となりかねない。

したがって、案―2を進める上で大きな問題となる下記の2項目について客観的な検証を徹底し、それに基づいて現実的な再生案を考案していかねばならない。

1）財政・経営問題

病院建設費及び医療機器更新費　計37.5億のうち大学側の3.3億（全体費用の10%以下）負担は国・県・市からの補助を受けるため不可欠なものであり、甘受せざるをえないが、これをはるかに上回る支出についてはこれまで述べてきたように認めることは出来ない。

この建設費等とは別に、10年間にわたる運営費として市から毎年1.8億の補助が出るが、その半分は救急医療に対応するもので市内でネットワークを組む他の連携医療機関とシェア、残り半分は高額のインセンティブを設定した病院の人件費の補填に当てることになる。このような支援を受けながら、果たしてこれまで10年間にわたって慢性的に続いてきた赤字体質をどのように変革し、経営の健全化を図っていけるかが最も基本的な問題となるが、そのためには、下記のような方法論の具体化が焦点となる。

（1）新設された病院の快適なアメニティのもと、旧来の大学病院の色に染まった組織や体制を打破・革新するとともに、全スタッフの意識改革を推進する。

（2）篠山病院を特色づける診療体制を強化あるいは新規に構築していく。例えば、リハビリの充実や本院で知名度の高いIBD専門科やがんの化学療法科等のブランチ機能の整備、ターミナルケア(ホスピス)的な診療科の設置、更にこの度、厚生労働省が打ち出した新医療計画(4疾患と5事業)の対象となっている特定の分野の専門性を高める方策等に創意工夫をこらす。

（3）医療経営のノウハウに優れた医療法人の運営を参考としつつ、また、場合によっては連携をとりながら、更にはコンサルティング会社の協力を得ながら、独立採算体制を目指し160床の小規模病院に見合った効率的経営を推進していく。病棟再編や 徹底した経費削減は想定内の課題として取り組んでいく。

（4）高齢者を対象とした介護・福祉事業にも活動範囲を拡大していく。治療から介護へと一貫した流れが、篠山市のような地方の小都市では特に要求されるのではないか。

（5）医師会との協力関係をこれまで以上に重視し地域内の病診・病病連携を積極的に推進していく。また、西宮キャンパスとのより密度の濃い連携体制を構築していく。

2）医師確保問題

現在、日本の医療に危機的な状況をもたらしている医師不足や医師偏在の趨勢の中、本学においてもその影響は免れえず、篠山病院への医師派遣は深刻な問題である。国の失政である医師削減施策や新研修医制度がこのような状況をもたらしたといえるが、新参入の医師達の医療に対する考え方、心身両面で過重の少ない診療科への偏向や都市部志向、更には医局の人事コントロールの困難さ等が、直接的にあるいは間接的に地域医療にかつてない大きな暗い影を落としている。

これらの是正のためにようやく国も動き始めたが、早急には解決されるものではない。

本院としても、臨床教員は他学に比して多く人件費比率もそれに相応して高くなっているが診療各科における人的余裕は概して乏しく、他院に派遣していた医師を本学に戻している科もあるような状況の中では、同一法人の病院間といえども医師の異動は容易でない。したがって、今後、篠山病院内での医師確保を図っていくためには以下のような新しい体制あるいは戦略の構築が必要であろう。

（1）関連医局には篠山病院への医師派遣を優先していただく。場合によっては、ローテーション体制を取り入れ、そこに「義務化」的なルールを確立させるとともに、派遣実績に応じて医局への研究費の増額等のメリットも考慮する。

派遣医師に対しては給与や大学人としての身分についての優遇策を講じることは言うまでもない。

（2）本学内に、“ 地域医療学 ”あるいは“ 家庭医学 ”を専門とする新しい教育診療組織を設置し、その臨床の場として篠山病院を活用する。

現在、国は医師不足、医師偏在の現況に鑑み、地域医療への関心と意欲を高めるための教育の促進、臨床実習における地域医療と接する機会の提供や、地域の医療機関との連携の推進、学生を地域へ定着させるための取組みを大学に要請している。本学もこれに応えるべく平成21年度より兵庫県推薦学生の増員の受け入れを決めているが、上述の新組織とそれに対応するフィールドとして篠山病院を活用すれば、地域医療志向の医師育成に重きを置く文部科学省の要望にもマッチする。

新組織からの医師派遣は、ローテーション等の工夫を凝らすことにより容易になるし、もし講座ということになれば、篠山病院の医師のモチベーションも向上する。

更に、大学院も設置できれば研究志向の強い派遣医師にとっても魅力となる。

（3）産婦人科、小児科、救命救急の医師不足は現在、最も深刻な問題であるが、最近、県を中心として、丹波圏内の各医療機関の連携システムを構築して、それぞれの役割分担を明確化することにより危機的な診療科の機能をカバーしようとする気運が出始めている。国もまた、地域医療グループ化の推進を図っているが、この様なネットワークの体制が軌道に乗れば医師の負担は軽減され、また、他機関との交流は診療内容の充実にも役立つことになる。

これについて、過日、県知事との会談時に、知事から地域医療の危機を救済するために複数機関の連携によるユニークな医療体制のモデルを全国に先駆けて構築したい旨の発言もあった。

（4）現在篠山病院に勤務している医師たちは、本院から想像する以上に地域医療に対する医師としての使命感が強い。当初同病院への派遣に抵抗感があった医師達もいたが、現在は地元への強い愛着心や献身的な熱意を持って地域の診療に 励んでくれている。

本学としても、彼らの功労や本学へのロイヤリティに対して充分に報いなければならないが、これまで以上にその貢献度を高く 評価し、それに見合うインセンティブを提供することにより、その地域医療へのモチベーションを更に強化、向上させることが期待出来るであろうし、また、それに伴って医師の新しい参入にも効果をもたらすであろう。

（5）新研修医制度により大学離れした若い医師たちにも、最近、ようやく大学回帰への流れが見られるようになってきた。今後もこの傾向が続くであろうが、このような状況においては、篠山病院への医師派遣への困難さは次第に克服されていくのではないか。

6月6日篠山病院での再生のための基本コンセプトの説明会

以上、篠山病院の将来構想についての第一の選択肢としての案―2について、最も重要なキーポイントとなる財政・経営と医師確保問題について触れてきた。

要　約

1. 財政・経営問題について、前途は多難であるが、その経営の健全化は視野の内にあり、また、従来全く得られなかった行政による多額の財政支援が担保となり、法人経営への負の影響を回避した経営は期待しうる。

2. 医師確保問題についても、極めて困難な状況にあるが、学内の協力体制の強化によって解決しうる。勿論、楽観は出来ない。先の教授会においてもこれらの問題に関してその先行きを危惧する意見も多々見られた。しかし、現状の問題点の再認識と理解ならびにそれに基づく積極的な協調体制さえ整えば克服は十分可能である。

という2点が、案―1と案―2の二者の中から後者を優先する私見の根拠である。

今般、案―2を受けた兵庫県による調整案が提示されており、これによれば、本学は篠山病院全体の新築及び所要の機器類の更新に要する金額として35.5億が見積もられ、このうち本学の所要投資額は、4.3億円とされている。

本学が案―2で示した本学負担限度額3.3億円の要件は満たされないものの、国の補助の活用増大及び知事の英断による県からの補助拡大等により、昨年の協定素案が論議された時点での本学負担額案13.3億円は大幅に削減され、新たに約束された医師確保等のための運営費補助とともに財政面における裏付けの見通しが立った。

そもそも、本件に関して本学が真正面から向かい合わねばならない最も本質的な問題は、本学の公器としての社会的責任を下地とした当為、すなわち「あるべき論」に対する大学の総意の方向性である。建学の理念に基づいた三次元、四次元的な医科大学としてのミッションに対する全学の意志の行方である。

たとえ、篠山病院の経営が健全化しても、たとえ医師派遣問題が解決したとしても、一体何のために存続させるのか、つまり、存続の大義は一体何なのか、先ず第一にその解答を明確にしておかねばならないが、本学の建学の精神の展開に向かって、志が個人の中に留まっている限り、また、各部局の中に留まっている限り、更に又、大学の中に留まっている限り、そこからは真実に迫る正解は生まれてこない。

広大な時空を超えた大局観の中にしか答えはない。

兵庫県による調整案を前提として、案―2を俎上にあげて、これまで述べてきた内容に沿って最善の具体策を徹底的に追求し、これを実践する固い決意をもって臨むことを考えている。

以　上

最近の主な出来事

6月 JUNE

2	兵庫医科大学病院	トライやる・ウィーク（6月2日～6日）	「トライやる・ウィーク」は県下の公立中学2年生全員が地域社会で一週間の体験活動を行うもので、今年も学文中学の生徒5名が「ひとの役に立つ仕事がしたい」「医療に興味がある」と、当院で体験活動を行いました。10-5～10-9病棟で実習を行い、特にクラーク、看護補助の皆さんにはお世話になりました。毎朝何回も挨拶の練習をしてから現場に赴きましたが、効果のほどはいかがだったでしょうか？緊張の中に始まった体験学習ですが、帰る前には「楽しい、楽しい」の連発で、興奮気味に一日の体験を口にしていたのが印象的でした。仕事の厳しさと人の優しさに触れた一週間だったようです。ここでの体験は、彼らの中にどんな種をまいたのか、どんな栄養分となったのか、どんな花を咲かせるのか。とっても楽しみです。
3	兵庫医療大学	学生相談室主催イベント	→P26をご覧ください。
10	兵庫医療大学	体育館建設工事安全祈願祭	→P33をご覧ください。
11	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「女性に特有な精神的問題について」をテーマに、精神科神経科 西井 理恵助教が第3会議室で講演を行いました。
12	兵庫医科大学病院	第8回地域医療懇談会	→P20をご覧ください。
13	兵庫医療大学	平成21年度入試説明会	午後2時からM棟1階のM112室において、高等学校、予備校の教員を対象とした入試説明会を実施しました。平成20年度入学試験の総括、平成21年度入試概要の説明、学部学科の説明及び質疑応答、高大連携についての案内、キャンパス見学のほか、今年度は3学部（薬学・看護学・リハビリステーション学）合同の授業参観を行い、在学生の様子をご覧いただきました。48校（うち予備校7校）が参加されました。
14	兵庫医療大学	地域連携実践センター公開講座	「在宅療養における栄養剤の使い方 その2」をテーマに、薬学部医療薬学科 八野 芳已教授が地域連携実践センターで講演を行いました。
16	兵庫医療大学	看護学部特別講義「社会福祉国家デンマークにおける社会福祉・看護・介護の現状について」	→P27をご覧ください。
19	兵庫医科大学	学位授与式	→P17をご覧ください。
22	兵庫医療大学	オープンキャンパス	→P24をご覧ください。
25	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「こどもと食物アレルギー」をテーマに、小児科 澤木 潤子助教が第3会議室で講演を行いました。
27	兵庫医科大学	教員対象入試説明会	第2会議室において、高等学校、予備校の教員を対象とした入試説明会を実施しました。平成21年度入試概要の説明及び質疑応答、学習支援制度についての説明、個別相談・キャンパス見学を行いました。26校（うち予備校12校）が参加されました。
28	兵庫医科大学	肝がん撲滅フォーラム2008 肝臓病死を防ぐために 主催：日本肝臓学会、神戸新聞社 後援：兵庫県医師会、神戸市医師会、西宮市医師会、尼崎市医師会 協賛：中外製薬株式会社	平成記念会館において開催され、約600名が参加しました。 開会挨拶　兵庫医科大学　波田　壽一 学長 第一部「兵庫県の肝炎対策」 司会：神戸朝日病院 金 守良 院長 講演　「兵庫県における総合的な肝炎対策」 兵庫県健康福祉部 健康局 疾病対策課 鷲見 宏 課長 第二部「肝炎の治療法」 司会：兵庫医科大学 内科学 肝・胆・膵科 西口 修平 教授 講演1　「B型肝炎の最新治療」 明石市立市民病院 肝臓内科 進藤 道子 部長 講演2　「あなたに合ったC型肝炎の治療法を探そう」 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 臨床研究センター治療研究 八橋　弘 部長 第三部「Q&Aコーナー」
	兵庫医科大学	市民公開講座 「～胃がんを診つける・治す・予防する～」 主催：厚生労働省がん研究助成金 後援：神戸新聞社、第14回日本ヘリコバクター学会、兵庫県医師会、兵庫県保険医協会	兵庫医療大学オクタホールにおいて下記のとおり開催されました。 司会：兵庫医科大学　臨床栄養部　福田　能啓　臨床教授（厚生労働省「胃がんとﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ」研究班・班長） 開会挨拶　兵庫医療大学 松田 暉 学長 講演1　「胃がんを診つける!」日本橋大三クリニック　斉藤　大三 院長（元国立がんセンター中央病院内視鏡部部長） 講演2　「胃がんを治す!」国立がんセンター中央病院胃外科　深川 剛生 医長 講演3　「胃がんを予防する!」国立国際医療センター内視鏡部 上村 直実 部長

トライやる・ウィーク

トライやる・ウィーク

市民健康講座「女性に特有な精神的問題について」

平成21年度入試説明会

地域連携実践センター公開講座

市民健康講座「こどもと食物アレルギー」

教員対象入試説明会

肝がん撲滅フォーラム2008
肝臓病死を防ぐために

市民公開講座
「～胃がんを診つける・治す・予防する～」

30	兵庫医科大学	平成20年度 自衛消防訓練＜基本訓練＞（6号館）	6-1病棟のリネン室から、勤務時間中の出火を想定し、訓練を行いました。通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施し、教職員に自衛消防隊員であることの自覚を持っていただき、防火意識の高揚を図ること、また、自衛消防隊の役割班（隊員）の迅速かつ的確な措置行動の習熟を図ることが目的です。特に「指揮命令系統の徹底、連携」を重点的に行いました。約55名が参加しました。
	兵庫医科大学	クロアチア共和国・リエカ大学医学部との交換留学（4週間）	リエカ大学から3名が来日、外科・産科婦人科・救命救急の病棟実習を行いました。本学からは5年生3名がリエカ大学へ留学しました。詳細は10月号で掲載します。

平成20年度 自衛消防訓練＜基本訓練＞

クロアチア・リエカ大学交換留学

7月 JULY

2	兵庫医科大学病院	阪神地区救命救急ｾﾝﾀｰ運営協議会	協議会は阪神地区救命救急センター（兵庫医科大学救命救急センター）が円滑に運営されるために必要な事項を調査審議するもので、委員は関係行政機関、阪神7市各市医師会、兵庫医科大学から推薦されています。今回は「運営利用状況（実績）」「患者受け入れ状況に関わる情報配信」「阪神・丹波地域メディカルコントロール体制の関わり」等について審議しました。
9	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「発音障害と歯科治療」をテーマに、歯科口腔外科　本田　公亮講師が第3会議室で講演を行いました。
18	兵庫医科大学病院	第8回兵庫医科大学病院公開クリニカルパス大会	3-3講義室において下記のとおり開催しました。今回は地域医療連携の推進と、地域医療のネットワーク作りを目的に、地域連携クリニカルパスをテーマとして公開で開催し、182名が参加しました。 【第一部】大腿骨頚部骨折地域連携クリニカルパス ・「地域連携クリニカルパスの施設基準等」 病院事務部　甲斐義啓次長（地域医療課課長兼任） ・「当院における大腿骨頚部骨折・地域連携クリニカルパス導入時の問題点」 整形外科 福西 成男講師 ・「大腿骨頚部骨折のリハビリテーション～よりよい地域連携クリニカルパスをめざして～」 リハビリテーション部　上谷　清隆副主任技士 【第二部】講演 ・「地域連携クリニカルパスの活用」 若草第一病院 山中 英治副院長
19	兵庫医療大学	オープンキャンパス	→P24をご覧ください。
23	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「白血病・リンパ腫に対する新しい治療」をテーマに、血液内科 岡田 昌也講師が第3会議室で講演を行いました。
25	兵庫医科大学	早期臨床体験実習（～30日）	詳細は10月号で掲載
26	兵庫医科大学病院	"医療が変わる!医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラムin関西"	平成記念会館において下記プログラムにて開催されました。 ・医療安全全国共同行動の開始にあたって ・共同行動の概要の説明 ・8つの行動目標と推奨対策案について ・参加登録と指標登録方法の説明 ・ベストプラクティスの紹介（司会：看護部 谷山 暁子 次長） ・共同行動に期待するメッセージ ・閉会のあいさつ（医療安全管理部 太城 力良教授）
	兵庫医科大学病院	平成21年度臨床研修医採用試験（7月26日、27日、8月2日、3日）	7月26日、27日、8月2日、3日（いずれの日かを選択）に行われました。
30	兵庫医科大学	第1回兵庫肝疾患診療連携フォーラム -肝疾患診療連携拠点病院からの情報発信- 共催：兵庫県肝炎対策協議会、シェリング・プラウ株式会社	平成記念会館において、下記のとおり開催されました。 開会挨拶：兵庫医科大学 波田 壽一学長 講演：座長 兵庫医科大学 内科学 肝・胆・膵科 西口 修平教授 「ウイルス肝炎対策 -これまでの総括と今後の展開-」 アルパーク検診クリニック吉澤 浩司名誉院長（広島大学 名誉教授） 「リバビリン併用療法 更なる飛躍をめざして」 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 熊田 博光分院長 閉会挨拶：神戸大学大学院 肝胆膵外科 具 英成教授
末～8月	兵庫医科大学	西日本医科学生総合体育大会	詳細は10月号で掲載

阪神地区救命救急センター運営協議会

市民健康講座「発音障害と歯科治療」

第8回兵庫医科大学病院公開
クリニカルパス大会

市民健康講座
「白血病・リンパ腫に対する新しい治療」

キックオフ・フォーラムin関西

第1回兵庫肝疾患診療連携フォーラム

TOPICS

8/1 兵庫医科大学キャンパス見学会

受験生・保護者・高校1、2年生を対象に、3-3講義室において実施しました。入試概要説明に続き、小児科 服部 益治臨床教授による模擬講義「生命を守る予防とは」、相談コーナー（入試、学生生活、奨学金、その他）、在学生との交流コーナー、キャンパス見学、スキルスラボ（医学教育シミュレーター展示・体験コーナー）資料配布を行いました。

兵庫医科大学

学長×学生
兵庫医科大学
座談会

信頼される良い医師になってほしい

波田　壽一学長

平田　展也さん
1年生・サッカー部、軽音楽部

岸本　佳子さん
1年生・ゴルフ部

草壁　みのりさん
1年生・野球部マネージャー、ボランティア部

北裏　卓也さん
1年生・ラグビー部

司会

岩佐　一史さん
教務学生課長

兵庫医科大学の印象は?

司会:入学されて3ヶ月が経ちましたが、兵庫医科大学の印象はいかがですか。
岸本:勉強する時、遊ぶ時というメリハリがついていて、思っていたよりも雰囲気が明るいですね。
平田:厳しいカリキュラムの中でも、先輩たちは部活も本気でやっていて、そのあたりはいいなと感じました。
草壁:私は一度別の大学に通っていたんですが、兵庫医科大学はアドバイザー制度があるし、先輩方も親切で、上下関係が親密だし心強いです。

関西学院大学との連携講座がスタート

司会:今年は関学との学術交流の一環として連携講座が始まりましたが、授業についてはいかがですか。
北裏:他の学校の方と触れ合える機会はすごく大事だと思いますし、他の大学・学部がどのようなものかということも知ることができていいと思います。ただ、クラスが幅広く分かれてしまって、難易度も科目によってぜんぜん違うのが気になりますね。
岸本:関学の3年生や4年生が主にとっている授業に割り当てられて、ついていけないと言っている子もいますし、単位のとりやすさに差がある気がします。
草壁:事前に講座についての説明会など十分なオリエンテーションや考える時間があれば、皆で相談したりもできると思います。
学長:入学から授業が始まるまでが短いからね。最初のオリエンテーションで難易度についてもある程度明確にするよう、関学の教務の先生とも相談して、改善していきましょう。

勉強に関してはやっぱり不安

司会:試験とか進級、あるいは医師国家試験のことも気になるところでしょうけど、そのあたりはいかがですか。
北裏:6年先のことはなかなか想像がつかないんですけど、着実に進級していこうという気持ちはやっぱり強いですね。
学長:1度でも留年した人は、そうでない人と比べて、医師国家試験の合格率が落ちるんです。留年せずに頑張っていれば、国家試験もそんなに心配はいりません。
平田:僕は暗記系が苦手なので、そこが心配ですね。
学長:覚えるのは限度があるから、むやみに丸暗記しても駄目だよね。これからは試験問題も記述式の問題も多く出します。今までとは少し勝手の違う問題が出てくるかもしれませんね。
岸本:毎週毎週、試験が多いみたいなので、ちょっと不安です。
学長:医学の進歩はものすごく早いんです。10年前とはまったく

違う。僕らの頃に比べて勉強する内容は倍以上に増えているのに6年間というのは同じですから、どうしても授業時間が増えてしまいます。医学部の場合には、6年の末に医師国家試験があって、これに合格しないと意味がない。だから試験が多く不安というのは非常によくわかりますが、1年生の時から勉強する習慣をつけてほしいですね。

クラブ活動も積極的に

司会:皆さん、クラブ活動でも積極的に活動されているようですね。
北裏:僕はラグビー部で、怪我が多いスポーツですが、レギュラーでやらせてもらっています。通常は週3回、先週まではずっと試合が入ってたので週4回でやってました。
岸本:私はゴルフ部なんですけど、週2回ですね。
草壁:私は野球部のマネージャーをしていて、週2回くらい行っていますね。野球部は去年が確か西医体でベスト8くらいまで進んでたと思うので、今年もそれ以上をねらってがんばっています。
司会:草壁さんはボランティア部にも入っているんですね。
草壁:はい。先日初めて活動に参加したんですけど、病室で実際に患者さんに声をかけさせていただいたり、本の貸し出しの手続きを通して一般の方とお話したり、貴重な体験をさせていただきました。身近に病院があるというのは大きいですね。
平田:僕はサッカー部に入ってるんですけど、サッカー部の成績はまだまだですね。
学長:サッカーはここの教員にも先輩がたくさんいますよ。昔は準優勝とか強い時期もあったみたいだね。個人競技は結構強いけど、チーム競技はあんまり強くないから、ぜひそれを巻き返してほしいと思いますね。
それと、お互いの協調性とか意思疎通を良くして勉強するためにも、できればチーム競技で、皆で協力して1つのことを達成するというのを経験してほしい。今の若い人たちは、メールでやりとりするから、相手の顔を見てお互いの感情を推測しながら情報をやりとりすることが減っていますからね。患者さんが何を考えているかを推測しながら聞くためのトレーニングをする意味でも、クラブ活動も積極的にやってほしいですね。

患者さんに信頼される良い医師になってほしい

司会:こんな医師になりたいというような志望とか夢はありますか。
北裏:患者さんやご家族の意見を尊重しつつ最善の治療ができるような、コミュニケーションをうまくとれる医者になりたいです。団体の部活に入ったのも、コミュニケーション能力を高めたいと思ってのことです。
岸本:私は家が社会福祉施設を経営してるので、その影響もあって将来は高齢者医療に従事したいと思っています。
草壁:私も、もちろん技術面や知識面でも立派ではありたいと思いますが、やっぱり人として優しかったり、いたわりの心を忘れない医師になりたいと思います。今は小児科医に興味がありますね。
平田:僕はあまり話し上手じゃないんですけど、「あの先生は明るいな」とか「楽しい先生だな」と思われるようにいつも笑顔を忘れない医師になりたいですね。
学長:どんな時でも笑顔で接することができるというのは素晴らしいことです。特に医師というのは明るい雰囲気というのが大事ですよね。医師が暗い顔していたら患者さんも暗くなるからね。きちんとコミュニケーションをとって患者さんの信頼を得ることができる良い医師を目指してがんばってほしいと思います。

医師国家試験の合格率向上に向けて

岸本:ここ数年、国家試験の合格率があまり変わらないことを学長はどうお考えですか。
学長:国家試験が難しくなっているので、各大学とも卒業認定を厳しくして合格率をあげようとしています。国立大学でも6年生を20人ぐらい留年させている大学もあるくらいです。どちらがいいかということなんですけどね。本校の卒業認定はスタンダードだと思うんですが、なぜ合格率があまりよくないかというと、スタート時期が少し遅いんだと思うんです。例えば、昨年卒業した人は今年の国家試験には全員合格しています。この1年分を前倒しして早めにスタートすれば合格率もあがるんじゃないかということですね。授業時間数をもっと減らして勉強の時間をつくってやってはどうかという意見もあるんですが、減らした分だけ努力をして勉強してくれるかどうか、なかなか自信が持てないんです。国家試験は、少なくとも65点以上は取らないと合格できないですから、平成19年度から進級基準を上げました。埼玉医科大学は進級基準を65点に上げたら、学内の雰囲気も厳しくなって、その次の年から国家試験の合格率が非常に良くなっている。その厳しさがうちの学生や教員にはまだ足りない。そこを皆さんがちゃんと認識して勉強してくれれば、次の国家試験の結果は良くなると思います。
司会:学長から皆さんに期待することは?
学長:1つは、できるだけ規則正しい生活をして、なるべく勉強する習慣と授業に出る習慣を身につけてほしいということ。もう一つは、身だしなみですね。一般の患者さんと近いですから、不潔感があってはいけない。食堂やエレベーターでの会話や、横一列で歩くようなことも気をつけてほしい。患者さんに好感を持たれるような言動をしてほしいと思います。兵庫医科大学の学生として、自信と誇りを持ち、それに見合う振る舞いをしてほしいというのが皆さんへのお願いです。
司会:貴重なお話をいただきました。ありがとうございました。

平成20年度科学研究費補助金交付決定

平成20年度科学研究費補助金（102件 総額259,110千円（うち直接経費208,200千円、間接経費50,910千円））の交付が下記のとおり決定しました。なお、昨年度末での実績は96件 総額284,870千円（うち直接経費238,610千円、間接経費46,260千円）でした。

（単位:千円）

所属	研究代表者	研究課題名	交付決定額 直接経費	交付決定額 間接経費
基盤研究（B）				
リハビリテーション医学	道免　和久	リハビリロボットを併用した脳卒中片麻痺上肢のハイブリッドCI療法	1,100	330
産科婦人科学	香山　浩二	卵巣組織の凍結保存と卵母細胞の培養系での成熟・受精・胚発生に関する研究	3,000	900
歯科口腔外科学	浦出　雅裕	ケモカインシグナルを介した口腔癌転移機構の解析と転移抑制の分子標的治療	3,600	1,080
解剖学（神経科学部門）	野口　光一	神経障害性疼痛発症の分子メカニズム	4,300	1,290
免疫学・医動物学	善本　知広	新規サイトカイン（IL-27,IL-33）による寄生虫感染防御機構の解析	6,500	1,950
外科学	藤元　治朗	消化管癒着・線維形成過程の分子機構解析・制御法開発と腸管星細胞探索の試み	4,100	1,230
先端研（細胞・遺伝子治療部門）	後藤　章暢	制限増殖型ウイルス治療におけるPETを用いた新規評価法の開発	5,500	1,650
病原微生物学	筒井ひろ子	ヘリコバクター・ピロリの慢性感染に与る宿主・病原体関係の解析	5,500	1,650
免疫学・医動物学	中西　憲司	好塩基球によるTh2誘導機構とアレルギー慢性化の解析	7,600	2,280
公衆衛生学	島　正之	日本と中国における自動車排出ガスの健康影響の国際比較に関する疫学研究	5,900	1,770
呼吸器外科学	田中　文啓	肺癌における循環血液中腫瘍細胞と血管内皮細胞の臨床的・探索的検討	6,800	2,040
脳神経外科学	泉本　修一	悪性グリオーマにおけるWT1免疫療法・化学療法併用新規集学的治療法の開発	5,900	1,770
基盤研究（C）				
生理学（生体機能部門）	荒田　晶子	小脳-橋-延髄標本を用いた発達小脳における機能的神経回路発現の解析	700	210
麻酔科学	上農　喜朗	麻酔の多経路多単位モデルを用いた麻酔関連薬物の相互作用の解析と臨床応用	800	240
産科婦人科学	小森　慎二	精子形成過程におけるTCTPの機能解析とアンドロゲンによる発現調節機構の検討	700	210
生化学	藤原　範子	新規酸化SOD1特異抗体を用いたALS発症機構の解明	1,100	330
超音波センター	飯島　尋子	非アルコール性脂肪性肝炎における非侵襲的、定量的機能診断法の確立	800	240
整形外科学	吉矢　晋一	膝関節3次元動作解析システムの確立と前十字靭帯損傷膝に対する応用	500	150
生理学（生体情報部門）	西崎　知之	AMPA受容体traffickingにおけるO-GlcNAc化の分子制禦機構	1,700	510
生理学（生体情報部門）	山本　英幸	PDGFd関連因子を標的とした悪性中皮腫診断および治療法確立への試み	1,700	510
病理学（病院病理部門）	廣田　誠一	消化管間質腫瘍の分子標的薬に対する耐性機序の解明	1,100	330
病理学（病院病理部門）	礒崎　耕次	KIT遺伝子改変動物を用いた消化管運動ペースメーカー細胞に発現する分子の解析	900	270
免疫学・医動物学	松本　真琴	気管支喘息におけるインターロイキン33の役割についての研究	1,300	390
遺伝学	吉川　麗月	癌分化誘導療法におけるhedgehog情報伝達系の解明-消化器癌を中心に	1,200	360
環境予防医学	若林　一郎	女性における動脈硬化性疾患予防の観点から見た適正飲酒に関する研究	1,200	360
内科学（上部消化管科）	田中　淳二	シグナル伝達分子を用いた内臓知覚伝達経路の解明	1,500	450
内科学（肝・胆・膵科）	中村　秀次	肝癌由来増殖因子と受容体の発現・活性化調節による肝癌増殖の制御	1,500	450
内科学（腎・透析科）	野々口博史	2種類の抗利尿ホルモン受容体の相互制御と利尿機構の解明による腎性浮腫治療法の開発	1,700	510
内科学（神経・脳卒中科）	芳川　浩男	筋強直性ジストロフィー症におけるリアノジン受容体機能、脳スプライシング異常の解析	600	180
内科学（リウマチ・膠原病科）	佐野　統	スフィンゴシン1-リン酸受容体制御による関節リウマチ治療	1,200	360
精神科神経科学	植木　昭紀	プレパルスインヒビジョンを利用した健忘型軽度認知障害の診断法の開発	500	150
外科学	王　孔志	おとり型核酸と肝細胞増殖因子を用いた放射線腸炎に対する治療効果の検討	1,500	450
外科学	藤原　由規	進行食道癌化学放射線療法感受性に対する予後規定因子の検索およびその臨床応用	1,300	390
外科学	平野　公通	切除不能高度進行肝細胞癌に対する化学療法併用腫瘍新生血管抑制治療法開発の検討	1,700	510
外科学	飯室　勇二	メカニカルストレス応答からみた肝再生・肝線維化の病態解析と肝臓器再生への応用	1,700	510
呼吸器外科学	多久和輝尚	遺伝子変異を指標とした肺癌の高感度播種およびリンパ節転移検知システムの構築	1,500	450
脳神経外科学	有田　憲生	脳および神経幹細胞におけるTLR分子の発現解析	2,000	600
麻酔科学	下出　典子	揮発性麻酔薬のヒト胎盤移行性と他剤の移行性への影響	1,000	300
形成外科学	西本　聡	慢性虚血肢潰瘍に対する末梢血および骨髄由来多血小板血漿の治療効果	800	240
救命救急センター	小谷　穣治	侵襲下骨髄細胞アポトーシス誘導と免疫抑制におけるTIRファミリーレセプターの役割	1,200	360
解剖学（神経科学部門）	徳永　敦	顎関節痛の末梢感作におけるMAPキナーゼファミリーの役割	1,500	450
歯科口腔外科学	野口　一馬	正常唾液腺培養細胞の維持と放射線照射唾液腺への移植による唾液腺再生の試み	1,000	300
歯科口腔外科学	橋谷　進	ヌードマウス可移殖株高転移ヒト腺様嚢胞癌の転移機構の解析と転移抑制の検討	1,800	540
病理学（機能病理部門）	中正　恵二	歯周炎が脂肪性肝炎の発症と進行に及ぼす負の影響に関する研究	1,000	300
解剖学（神経科学部門）	福岡　哲男	神経因性疼痛モデルにおける電位依存性チャネルの発現変化と病態への関与	1,500	450
生理学（生体機能部門）	越久　仁敬	中枢呼吸リズム生成機構の発達過程の解明	2,000	600
生化学	鈴木敬一郎	腎疾患における酸化ストレスの関与と抗酸化代償機構の解明	1,300	390
病理学（分子病理部門）	西上　隆之	炎症性腸疾患に合併するがんの早期診断法の開発：粘液形質の解析	1,700	510
病理学（分子病理部門）	辻村　亨	悪性中皮腫の早期診断法の開発：分泌型および膜結合型蛋白質の網羅的解析	2,500	750
病理学（機能病理部門）	山田　直子	IL-18誘導性腫瘍細胞遊走抑制因子の同定と遊走抑制機構の解明	1,600	480
遺伝学	玉置　知子	悪性中皮腫発生抑制にかかわる遺伝子多型の検索	1,300	390
内科学（下部消化管科）	松本　譽之	炎症性腸疾患の発癌サーベイランスにおける腸管免疫異常と慢性炎症の意義	1,300	390

（単位:千円）

所属	研究代表者	研究課題名	交付決定額 直接経費	交付決定額 間接経費
がんセンター	藤盛　好啓	悪性胸膜中皮腫の細胞・分子生物学的解析と癌幹細胞の同定	1,200	360
内科学（呼吸器・RCU科）	田端　千春	肺線維症の予防および治療方法の新規開発	1,200	360
内科学（糖尿病科）	宮川潤一郎	GLP-1産生L細胞の分化・増殖機構の解明とそれに基づく新規糖尿病治療法の開発	2,000	600
皮膚科学	山西　清文	トランスグルタミナーゼの新規酵素活性に基づく角化の分子病態解析	1,100	330
外科学	鈴村　和大	アルギニンの惹起する細胞内シグナル伝達の研究と肝再生促進療法への研究アプローチ	1,500	450
外科学	笹子三津留	胃癌発癌機構の臨床的解析	1,500	450
外科学	宇山　直樹	肝内胆管癌組織に発現する細胞外マトリックスの機能解析とその臨床応用	1,100	330
外科学	佐竹　　真	ヒト膵臓癌におけるシーエックスシーケモカインの検討（予後・背景因子・分化度）	2,100	630
呼吸器外科学	奥村　好邦	肺癌手術中の循環血液中への腫瘍細胞遊離放出と術後遠隔転移再発の解析	1,600	480
麻酔科学	多田羅恒雄	低分子量代用血漿製剤による手術時サードスペースの軽減	1,000	300
先端研（細胞・遺伝子治療部門）	寺尾　秀治	膀胱癌に対する制限増殖型アデノウイルスベクターを用いた新規治療法の開発	1,000	300
外科学	田附　裕子	腸管機能障害で惹起される中心静脈栄養関連肝障害の肝細胞周期制御メカニズムの解明	1,700	510
病理学（機能病理部門）	大山　秀樹	HLA分子から刺激を受けた非血球系細胞は歯周病巣における体液性免疫優位に関与する	1,300	390
萌芽研究				
内科学（下部消化管科）	福永　健	熱ショック蛋白質の積極的誘導による新しい末梢免疫調節治療の基礎的検討	1,800	0
解剖学（神経科学部門）	野口　光一	神経根性疼痛における細胞外プロテアーゼtPAの関与	1,400	0
救命救急センター	寺嶋真理子	侵襲下腸粘膜細胞アポトーシス誘導におけるTIRファミリーレセプターの役割の研究	600	0
脳神経外科学	泉本　修一	WT1免疫療法におけるCD4陽性ヘルパーT細胞の解析と機能増強法の探索	1,300	0
医学教育学	成瀬　　均	医師養成における卒前・卒後に連携した新たな臨床能力試験の構築	1,600	0
内科学（腎・透析科）	中西　　健	ペルフルオロブタン微小気泡を用いた腎内血流分布の解析	1,000	0
若手研究（スタートアップ）				
生理学（生体情報部門）	矢口　貴博	アデノシン誘導アポトーシスにおける細胞内情報伝達経路の同定、治療法確立への試み	1,350	405
形成外科学	横山　茂和	放射線性難治性潰瘍に対する脂肪組織由来幹細胞の効果	1,350	405
特定領域研究				
病理学（病院病理部門）	廣田　誠一	GIST発生におけるKIT・PDGFRシグナル異常の解析	9,400	0
免疫学・医動物学	中西　憲司	寄生虫感染と宿主応答	18,200	0
解剖学（神経科学部門）	野口　光一	マルチモーダルセンサーTRPA1の機能調節機構	3,200	0
若手研究（B）				
数学	大門　貴志	薬物動態学における統計的推論の研究開発	600	180
医療情報部	平松　治彦	インシデントレポートの共有と流通に関する研究	900	270
解剖学（神経科学部門）	小林希実子	末梢神経損傷後の脊髄グリアで発現変化するプリン受容体の役割	1,400	420
生理学（生体情報部門）	菅野　武史	後根神経節におけるノルアドレナリン刺激ATP放出機構の解明	1,800	540
生理学（生体機能部門）	平田　　豊	中枢化学受容器機構の解明	400	120
内科学（上部消化管科）	大島　忠之	細胞間接合装置機能からみた食道粘膜防御機構と新たな病態分類に関する研究	1,100	330
内科学（冠疾患科）	藤井　健一	冠動脈不安定粥腫に対するアトロバスタチンの粥腫安定化効果の検討	1,300	390
生理学（生体機能部門）	増宮　晴子	心房細動治療の新展開：Agingに伴うコネキシンの変化が興奮伝播異常を惹き起こす	1,700	510
内科学（リウマチ・膠原病科）	北野　将康	破骨細胞の分化誘導と活性化におけるS1P/S1P1シグナルの役割	1,500	450
生理学（生体機能部門）	岡部　明仁	乳幼児突然死症候群の原因究明に向けて:KCC2の発達期発現異常と呼吸リズムの失調	1,200	360
耳鼻咽喉科学	都築　建三	アレルギー性鼻炎、および慢性副鼻腔炎における神経ペプチドの発現に関する研究	1,200	360
形成外科学	河合建一郎	アディポサイトカイン、ミオカインの糖尿病性創傷治癒遅延への影響	700	210
形成外科学	福田　健児	創傷治癒における適正湿潤度の検索	900	270
病理学（機能病理部門）	山根木康嗣	IL-18を用いたヒト骨肉種に対するサイトカイン療法の有効性向上に関する研究	1,600	480
解剖学（神経科学部門）	山中　博樹	神経因性疼痛における新規細胞間接着因子CHL1の役割	1,800	540
病原微生物学	内山　良介	宿主細胞カスパーゼ活性の制御を介した結核菌のマクロファージ内生存の分子機構	1,800	540
免疫学・医動物学	中平　雅清	Super Th1細胞誘導の分子機構	2,100	630
内科学（循環器内科）	内藤　由朗	心不全合併貧血に対する治療戦略の確立	1,600	480
環境予防医学	中野　知之	血管におけるジアシルグリセロールキナーゼのTRPチャネル分子制御機構の解明	1,900	570
内科学（リウマチ・膠原病科）	常見　　幸	FTY720の投与によるSKGマウスにおけるTregへの影響と関節炎抑制効果	1,700	510
皮膚科学	中川　　登	プロテアーゼ活性化受容体を介する表皮制御システムの分子病理学的解析	1,300	390
皮膚科学	津田　達也	炎症性皮膚疾患における新規血液RNA診断システムの開発	1,700	510
麻酔科学	植木　隆介	局所麻酔薬の胎盤移行に対する蛋白結合および母児アシドーシスの影響	1,100	330
形成外科学	蔭山　晶子	創傷治癒過程におけるAdiponectin,Calreticulinの役割	2,300	690
歯科口腔外科学	田中　徳昭	腺様嚢胞癌の浸潤機構におけるMMPsおよび増殖因子の関与	1,500	450
歯科口腔外科学	阿部　徹也	三叉神経損傷動物を用いた三叉神経痛の発症機構の解明	1,900	570

平成20年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

（単位:千円）

所　　属	研究代表者	研究事業名	研　究　課　題　名	交付額
内科学 （循環器内科）	増山　　理	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	慢性心不全基本治療薬である利尿薬のクラス内予後改善効果の差異に関する研究	12,000
救急・災害医学	丸川征四郎	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	自動体外式除細動器（AED）を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究	36,180
外科学	笹子三津留	がん臨床研究事業	進行胃がんの生存率を向上させる標準的治療法の開発に関する研究	22,698
臨床栄養部	福田　能啓	がん研究助成金	ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌の修飾因子に基づく予防策の検討	11,270

平成20年度公的資金一覧

（単位:千円）

区　　分	所属部署	職名	研究代表者	研究課題（プロジェクト）名	事業費	交付額	備　考
私立大学学術研究高度化推進事業 ハイテク・リサーチ・センター整備事業	先端医学研究所 生体防御部門	教授	中西　憲司	感染・炎症現象の解析と制御	85,000	42,500	平成18年度～22年度 文部科学省
	先端医学研究所 発生・生殖部門	教授	香山　浩二	配偶子形成において特異的に発現する遺伝子の同定と関連タンパク質の機能解析および生殖補助医療への応用	15,000	7,500	平成16年度～20年度 文部科学省
私立大学学術研究高度化推進事業 オープン・リサーチ・センター整備事業	解剖学 神経科学部門	教授	野口　光一	疼痛の分子情報伝達機構と難治性疼痛病態への関与の解明	22,000	11,000	平成18年度～20年度 文部科学省
私立大学学術研究高度化推進事業 社会連携研究推進事業	先端医学研究所 細胞・遺伝子治療部門	研究所教授	後藤　章暢	細胞治療製剤プロセッシングシステム開発	24,700	12,350	平成18年度～22年度 文部科学省
環境技術開発等推進費	公衆衛生学	教授	島　　正之	そらプロジェクト（学童コホート調査）の阪神地区における同意確保調査	9,300	7,740	平成17年度～21年度 環境省
循環器病研究委託費	病理学 病院病理部門	准教授	羽尾　裕之	原発性肺高血圧症の成因及び肺血管リモデリングに関する研究	1,100	1,100	平成19年度～21年度 国立循環器病センター
産学共同シーズイノベーション化事業 （育成ステージ）	免疫学・医動物学	教授	中西　憲司	抗IL-18を用いた疾患メカニズムの解析とその治療法に関する研究	31,664	31,664	平成18年度～21年度 （独）科学技術振興機構
科学技術振興調整費 （科学技術総合研究委託費）	内科学 呼吸器・RCU科	教授	中野　孝司	アスベスト関連疾患への総括的取り組み	104,154	104,154	平成18年度～22年度 （独）科学技術振興機構
学術研究振興資金	免疫学・医動物学	教授	中西　憲司	IL-18を標的とした難治性気管支喘息の新規治療法の開発	5,200	2,200	平成18年度～20年度 日本私立学校振興・共済事業団
大学改革推進等補助金 「がんプロフェッショナル養成プラン」		学長	波田　壽一	6大学連携オンコロジーチーム養成プラン	26,984	26,036	平成19年度～23年度 文部科学省
環境技術開発等推進費	公衆衛生学	教授	島　　正之	大気環境中の粒子状物質及びオゾンと気管支喘息発作との関連性に関する研究	7,020	7,020	平成20年度～21年度 環境省
日中医学交流事業セミナー	耳鼻咽喉科学	准教授	瀬尾　　徹	最新のめまいの診断と治療	1,437	1,437	平成20年度 （独）日本学術振興会
		計			333,559	254,701	

平成20年度大学院学生研究助成交付決定

番号	専　　攻	学年	氏　名	研　究　課　題　名	助成金 配分額（千円）
1	外科系 眼科学	4	松葉　沙織	実験的アレルギー性結膜疾患マウスモデルを用いたアレルギー性結膜疾患の病態解明とIL-33の関与	800
2	医科学専攻　器官・代謝制御系 循環器病学	3	赤神　隆文	血管平滑筋の老化におよぼすインターロイキン18（IL-18）の影響、および治療への応用	600
3	医科学専攻　高次神経制御系 神経眼科学	3	大野新一郎	ピログルタミン酸の軸索切断された網膜神経節細胞に対する神経保護効果	600
4	生理系 生化学	4	吉原　大作	Glutathione S-transferase A4（GSTA4）による酸化ストレス防御機構の解明	600
5	内科系 内科学　循環器	4	松本　実佳	心不全におけるサイトカインの役割についての検討	600
6	医科学専攻　生体再生制御系 造血細胞移植学	3	佐竹　敦志	MHC半合致GVHDモデルマウスの病態解析	600

兵庫医科大学

平成20年度教員研究費助成配分者決定

No.	所属講座等	職名	配分者	所属長	研　究　課　題　名
1	数学	講師	大門　貴志	村岡　良和	Bayes流予測点検接近法の臨床評価への適用に関する研究・開発
2	解剖学 細胞生物部門	助教	菜原　佐知	関　　眞	下垂体におけるアクアポリンの局在とその機能解明
3	解剖学 神経科学部門	助教	三好　　歓	野口　光一	IL-18を介したマイクログリア・アストロサイト相互作用と神経因性疼痛
4	生化学	助教	崎山　晴彦	鈴木敬一郎	糖尿病や酸化ストレスが転写因子、Carbohydrate Response Element Binding Protein（ChREBP）に及ぼす影響
5	薬理学	助教	長野　貴之	竹村　基彦	プロスタグランジンE2のミクログリア活性化に対する作用の検討
6	公衆衛生学	助教	俵　　健二	島　　正之	呼気凝縮液中物質をマーカーとした呼吸器疾患の疫学的評価に関する基礎的研究 ―透過型電子顕微鏡および高速液体クロマトグラフを用いた呼気凝縮液中物質の分析法の確立―
7	病理学 機能病理部門	助教	山根木康嗣	寺田　信行	ヒト悪性腫瘍における抗腫瘍免疫細胞抵抗性の減弱に関する研究
8	病理学 分子病理部門	助教	佐藤　鮎子	辻村　　亨	悪性中皮腫治療効果判定に有用な培養細胞株の樹立と疾患モデルマウスの作製
9	内科学 （循環器内科）	助教	峰　　隆直	増山　　理	至適右室ペーシング部位の決定とその効果の評価に関する研究
10	内科学 （循環器内科）	助教	川﨑　大三	増山　　理	浅大腿動脈完全閉塞を有する下肢閉塞性動脈硬化症患者の血管内治療における慢性期開存率の向上に関する研究
11	内科学 （血液内科）	講師	池亀　和博	小川　啓恭	HLA半合致造血幹細胞移植から、より包括的な細胞療法としての新規造血細胞移植療法の開発 ―その発展に向けた前臨床～臨床的検討―
12	内科学 （リウマチ・膠原病科）	准教授	松井　　聖	佐野　　統	多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎における治療の基礎的検討と臨床効果の検討
13	内科学 （肝・胆・膵科）	講師	齋藤　正紀	西口　修平	慢性肝疾患におけるメタボリック症候群の影響とその栄養病態評価および治療効果の検討
14	内科学 （内分泌・代謝科）	助教	井野口　卓	山本　徹也	痛風とメタボリックシンドロームとの関連
15	内科学 （上部消化管科）	講師	大島　忠之	三輪　洋人	タイトジャンクション蛋白の発現パターンからみた胃腺腫と胃癌発生に関する研究
16	内科学 （上部消化管科）	助教	富田　寿彦	三輪　洋人	高齢者胃癌に対する非侵襲的治療であるアルゴンプラズマ凝固法の安全性と長期治療効果
17	内科学 （神経・脳卒中科）	講師	木村　　卓	芳川　浩男	筋強直性ジストロフィー症におけるリアノジン受容体機能、脳、心筋スプライシング異常の解析
18	内科学 （腎・透析科）	助教	名波　正義	中西　　健	Erythropoietin 抵抗性腎性貧血での細網内皮系における細胞内鉄輸送調節障害の関与と分子メカニズムに関する検討
19	小児科学	助教	澤木　潤子	谷澤　隆邦	抗原特異的IgG抗体、好塩基球、Platelet-Activating Factor（PAF）および PAF Acetylhydrolase を介したアレルギー症状の前方視的研究
20	脳神経外科学	助教	白川　　学	有田　憲生	くも膜下出血後の脳槽癒着水頭症モデルの確立と癒着形成に関与するサイトカインと免疫応答の動態解析
21	心臓血管外科学	講師	山村　光弘	宮本　裕治	下肢血行再建術後に生じる再灌流障害の機序と抑制―電子顕微鏡レベルの細胞動態に着目して―
22	歯科口腔外科学	助教	髙岡　一樹	浦出　雅裕	腺様嚢胞癌血行性転移における一酸化窒素の関与について
23	臨床検査部	助教	小坂　英和	小柴　賢洋	アデノシン制御を介した関節リウマチの新規治療開発
24	超音波センター	臨床教授	飯島　尋子	山村　武平	造影超音波映像法による非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の定量的確定診断法の確立と病態解明
25	先端研 発生・生殖部門	准教授	赤谷（長谷川）昭子	香山　浩二	初期発育卵胞の遺伝子発現解析と卵胞発育培養への応用

【配分額】1名:892,240円（2年間で使用）とする。

平成21年度兵庫医科大学入学試験概要

推薦入学試験

募集人員	15名
試験科目	基礎学力検査、小論文、面接、調査書
出願期間	平成20年10月29日(水)～11月11日(火)必着
試験期日	平成20年11月16日(日)
試験場	兵庫医科大学
合格発表	平成20年11月25日(火)

一般入学試験

募集人員	85名 ※増員する可能性があります。
試験科目	第1次試験:数学(150点)、外国語(150点)、理科(2科目)(200点)　第2次試験:小論文(100点)、面接
出願期間	平成20年12月22日(月)～平成21年1月23日(金)《消印有効》
試験期日	第1次試験:平成21年2月1日(日)　第2次試験:平成21年2月11日(水・祝)または12日(木)(希望日を出願時に選択)
試験場	第1次試験:①兵庫医科大学 ②東京会場:都市センターホテル ③福岡会場:福岡商工会議所　第2次試験:兵庫医科大学
合格発表	第1次試験:平成21年2月9日(月)　第2次試験:平成21年2月18日(水)

平成21年度兵庫医科大学大学院入学概要

医学研究科入学試験(前期・後期)

出願期間	前期:平成20年8月25日(月)～9月6日(土)／後期:平成21年1月26日(月)～2月7日(土)
試験期日	前期:平成20年9月19日(金)／後期:平成21年2月20日(金)
試験場	兵庫医科大学
選考方法	①外国語試験　②面接(学内からの受験者については免除することができる)
合格発表	前期:平成20年10月3日(金)／後期:平成21年3月13日(金)

課程を経ない学位申請者に対する外国語試験(第54回)

出願期間	平成21年1月26日(月)～2月7日(土)
試験期日	平成21年2月20日(金)
試験場	兵庫医科大学
選考方法	外国語試験
合格発表	平成21年3月13日(金)

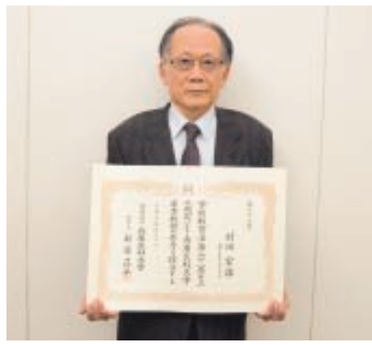
医学研究科入学試験(本学教員)

出願期間	募集要項配布時～2月7日(土)(随時受付)
試験期日 試験場	指導教授の指示した日時及び場所で実施する
選考方法	外国語試験及び面接　・専門の領域の英文論文による。 ・指導教授と指導教授が推薦した3名の研究科教授から学長が指名した面接委員1名が行う。
合格発表	研究科教授会において承認された翌日

※詳しくは平成21年度学生募集要項をご確認ください。

名誉教授称号授与

平成20年4月1日付で、物理学 村田 宏雄教授(平成20年3月31日定年退職、現入試センター長)に名誉教授の称号が授与されました。



汕頭大学医学院から表敬訪問に来られました

平成20年6月10日、汕頭大学医学院から黄教授(副院長)、胡副教授が本学を表敬訪問されました。理事長室で挨拶を交わされた後、共同研・先端研・免疫学などの研究施設や、病棟・外来・PETセンターなどの病院施設を見学されました。

また、今後の学生交流の具体案について、学長、野口教務部長、鈴木医学教育センター長を交え、話し合いが行われました。その後、本学に在籍する中国人研究員・留学生との懇談も行われました。黄教授からは記念品を贈呈いただきました。

左から、新家理事長、黄教授(副院長)、胡副教授、劉先生(内科学 肝・胆・膵科に留学中)、波田学長、山村病院長

平成19年度兵庫医科大学大学院生学術賞決定

平成20年7月3日、教授会の席において授与式が行われ、学長から賞状(楯)及び賞品が贈られました。

専攻	氏名	学位論文名
内科系 内科学上部消化管	櫻井　淳	Activation of Extracellular Signal-Regulated Protein Kinase in Sensory Neurons After Noxious Gastric Distention and Its Involvement in Acute Visceral Pain in Rats
外科系 外科学(Ⅰ)	濱田　哲宏	Oncostatin M Gene Therapy Attenuates Liver Damage Induced by Dimethylnitrosamine in Rats

櫻井さん

濱田さん

平成19年度ベストティーチャー賞が授与されました

7月3日教授会において賞状と賞金が授与されました。

第1～第4学年次において授業担当教員別、第5年次臨床実習においては科単位に、学生に無記名でアンケートを行い、評価上位者の4名と2部署がベストティーチャー賞を受賞しました。

第1学年次

解剖学（神経科学）　戴（たい）　毅（つよし）講師
※平成20年4月1日より兵庫医療大学薬学部 准教授

第2学年次

心臓血管外科学　宮本（みやもと）　裕治（ゆうじ）教授
※授賞式は光野准教授が代理で出席

第3学年次

耳鼻咽喉科学　阪上（さかがみ）　雅史（まさふみ）教授

第4学年次

脳神経外科学　林（はやし）　宏（ひろし）助教
※平成20年1月15日退職

第5学年次

<クリニカル・クラーク部門> 内科（内分泌・代謝科）グループ

<ポリクリ部門> 耳鼻咽喉科グループ

学位の授与

外科系　**近藤　祐一**

学位論文名　甲第513号（H19.3.31）

Administration of IL-33 induces airway hyperresponsiveness and goblet cell hyperplasia in the lungs in the absence of adaptive immune system
IL-33は獲得免疫応答の関与なしに気道過敏性の亢進及び気道杯細胞の過形成を誘導する

外科学　**金村　博成**

学位論文名　乙第306号（H20.5.1）

Hepatocyte growth factor gene transfer with naked plasmid DNA ameliorates dimethylnitrosamine-induced liver fibrosis in rats
プラスミドを用いた肝細胞増殖因子の遺伝子導入はジメチルニトロソアミンで誘発されたラット肝線維症を改善する

小児科学　**大塚　欣敏**

学位論文名　乙第307号（H20.5.1）

RAS-blocking Bisphosphonate Zoledronic Acid inhibits the abnormal proliferation and differentiation of juvenile myelomonocytic leukemia cells in vitro
ビスフォスフォネート製剤であるZoledronic Acidは若年性骨髄単球性白血病細胞の増殖、分化をin vitroで抑制する

コロンビア大学病院 循環器内科での実習を終えて

兵庫医科大学　第6学年次　**松井　聖博**

左から医学生のMoira,Ram、フェローのDr.Sims、アテンディングのDr.Irubunda、そして私（実習でお世話になったコンサルトチームのメンバーです。）

まずこの度はコロンビア大学で、臨床実習をさせて頂く機会を頂戴し、循環器内科増山教授をはじめ、鈴木教授その他お世話になった先生方、皆様に厚く御礼を申し上げます。

コロンビア大学では心不全、心エコー、インターベンション、電気生理学、核医学など各分野で医局が存在し、常時30名以上の医師が勤務されていました。臨床現場では各分野でチーム編成されており、アテンディング、フェロー、レジデント（研修医）または学生で1チームとし、担当患者さんの診療にあたっていました。ちなみにアテンディングとは指導医であり、フェローとは3年間の内科研修を終えた専門課程の医師です。

私達は2週間ずつCCUとコンサルティングチーム（他科や救急外来などからのコンサルトを専門に受けるチーム）で実習を行いました。

毎朝7時からカンファレンスでは、新規入院患者のプレゼンに引き続きレクチャーがあり、その後は現地学生と共に病棟実習を行いました。毎日学生が患者に問診、診察、カルテチェックを行い、SOAPをコンピューターに記載します。検査オーダーや処方が出来上がると、フェローがすべてチェックを行い、アテンディングとの回診時に指導を受け、最終決定となり治療が行われます。学生がチームの一員として重要な役割を担っており、屋根瓦方式の教育システムが実施されていた事に驚きました。昼食をとりながらレジデントやフェロー対象のレクチャーも毎日あり、教育システムが充実していました。素晴らしい教育環境や研究システムが確立された背景には患者の莫大な負担や医療費が支払えない人たちは研究対象にならざるを得ないといった厳しい現実がある事も実感しました。

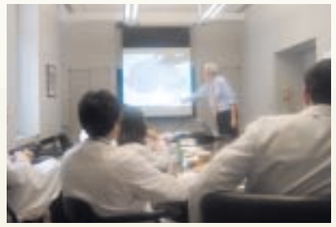
一方、日本は国民皆保険制度であり、誰でも良質な医療を受けることが可能で、大学病院では一人の医師が多くの患者さんを担当されて毎日奮闘されておられます。外来、検査、病棟業務、当直、症例報告や研究発表を一人の医師がこなし、その上に我々学生や研修医の指導までも担当して頂いています。日本の大学病院の教育システムについて考えた時、先輩医師達の努力や奉仕の精神が無くして成り立たない事も実感しました。あらためてクリニカルクラークシップでお世話になった先生方に感謝と尊敬の念で本当に頭が下がる思いでした。

コロンビア大学には研究生として、また臨床医としてご活躍されている日本人の先生方がたくさんいらっしゃいました。皆生き生きと仕事をされており、言葉や文化の壁がある厳しい環境の中でご活躍されている姿は尊敬と憧れであると共に、私達学生の未来も明るく希望に満ちているのだなと希望がわきました。

今回の実習を通して学んだ事を将来に生かし、医療に貢献できますよう、より一層学業に励んで参りますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

朝のカンファレンスで豚の心臓を用いて、新しいカテーテルを試しているところです。

ハドソン川沿いにある、コロンビア大学病院。



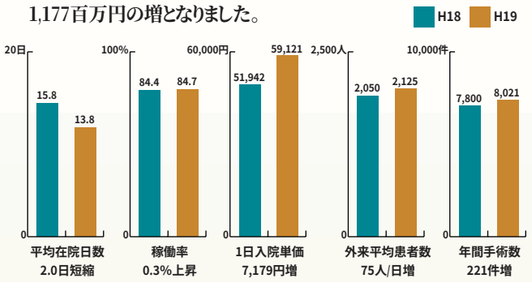
昼食時に行われるフェロー対象のレクチャーの様子。心筋炎の病理像についてのレクチャーでした。

病院長メッセージ

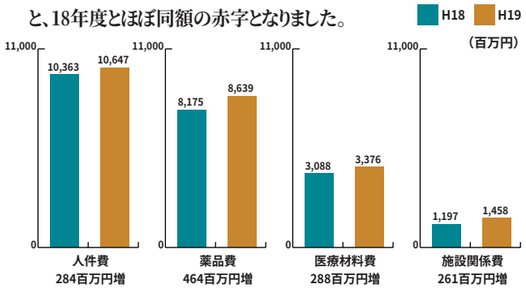
平成19年度 病院運営実績と今後

病院長｜山村　武平

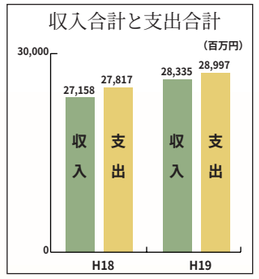
平成19年4月から病床の効率的運用（空床数の減少）を目的に、1号館13階東西病棟（88床）を休棟としましたが、年度前半は在院日数の短縮とトレードオフの関係が当然であるかのように、空床数は減少せず稼働率が上がらない状況が続きました。しかし年度後半には、在院日数を短縮させ、かつ、稼働率も上げるよう各科が努力し、稼働率が90%を超える日も増え、結果として19年度の平均在院日数は前年度の15.8日から13.8日と2.0日短縮し、稼働率も前年度の84.4%から84.7%と僅かながら上昇しました。1日入院単価は、8月から取得した7対1入院基本料（10対1と比べ1日当り+2,860円／人となる）が追い風となり、前年度の51,942円から59,121円と7,179円増となりました。また、外来の1日平均患者数は前年度より75人増の2,125人、1日単価も415円増の18,366円となりました。さらに、年間手術数は221件増の8,021件となりました。以上のように医師、看護師、技術職員、事務職員等が、病院運営が厳しい状況にあるにもかかわらず、懸命に働いた結果、収入合計は28,335百万円、前年度に比し1,177百万円の増となりました。



一方、支出では主に、教員、職員増による人件費が10,647百万円と前年度より284百万円増、さらに薬品費が8,639百万円と464百万円の増、医療材料費も3,376百万円と288百万円増であり、病院施設の稼動に必要な光熱水費、修繕費、賃借料等からなる施設関係費も261百万円増の1,458百万円となるなど、支出合計は28,997百万円と、前年度に比し1,180百万円の増となりました。その結果、残念ながら収支差▲662百万円と、18年度とほぼ同額の赤字となりました。



今後は収入面に関しては、土・日曜の稼働率が常に80%前後に落ち込み、空床が200床を超えることから、如何に土・日曜の稼働率を上げるか、また、平日は如何に同日入退院数の増加を図るか等を、しっかり検討し速やかに実施する事が必要です。



また支出面の削減も不可欠で、特に医薬品に関しては院外処方の実施に向けて、準備を進めていますが、それ迄にも、医薬品費高騰の原因となる新薬の処方や個人限定の処方は出来るだけ控えていただきたく思います（これらの処方比率が他大学にくらべ本院では非常に高くなっています）。一方で薬品や医療材料購入に関しては、それのみでなく、治験や研究助成寄付金も含め、トータルに関係会社と交渉する必要性を強く感じていましたが、この点は、新たに設置する物流センターが中心となり早急かつ積極的に取り組む必要があります。

このような懸命の努力を重ねても、かの有名な某病院でさえ、医療収支のみでは赤字であり、医療外収入で辛うじて黒字となっているという、極めて厳しい昨今の医療情勢の中で、改めて職員一人ひとりが病院経営改善に対する自覚を持ち、積極的に経営に関与していただくようお願いする次第です。

患者さん転院のため、伊丹空港から羽田空港へ航空搬送が実施されました

平成20年3月18日（火）、当院から東京都狛江市の東京慈恵会医科大学付属第三病院へ患者さん転院のため、伊丹空港から羽田空港への航空搬送が実施されました。

患者さんは、平成20年1月に神戸ユニバー記念陸上競技場で実施された全国高等専門学校ラグビーフットボール大会に出場し、試合中にスクラムが崩れて受傷、頚椎を損傷して四肢麻痺となりました。救命救急センターの医師と看護師の懸命の治療と看護、そして病院の近くに仮住まいをして懸命な介護を続けたお母様の努力により、2ヶ月後、地元東京に帰れるまでに回復しました。しかし、依然寝たきりの状態であったため、車両や列車による長時間の移動は困難であり、「JALプライオリティ・ゲストセンター」の協力を得て、ストレッチャーによる航空搬送が実施されました。

転院当日、医師2名（足立医師、西岡医師）、看護師1名（村井看護師）及び御両親と患者さんを乗せたドクターカーが当院を出発し、伊丹空港で旅客機のすぐ下までドクターカーを付け、ストレッチャーのまま機内に入りました。機内では、ストレッチャー用とその周囲の座席を含めて計12席分のプライバシーの保たれたスペースが確保され、約1時間のフライト中も医師と看護師により人工呼吸や吸引等の処置が施されました。羽田空港に到着後、民間の車両にて移動し、同日午後、無事に東京慈恵医科大学付属第三病院に到着しました。

（救命救急センター）

第8回地域医療懇談会を開催しました

平成20年6月12日（木）午後6時から、医師会及び地域医療機関との連携を深めるため、「第8回地域医療懇談会」をホテルニューアルカイック（尼崎）で開催致しました。

同懇談会は毎年1回開催しており、今回の出席者数は総勢146名（学内62名、学外84名）と、例年を大きく上回りました。また、初めて看護師やソーシャルワーカーの皆さんにもご出席いただきました。

懇談会では、兵庫県健康福祉部企画少子局健康福祉政策課　寺谷進課長による「兵庫県保健医療計画の目指すもの」及び兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター西播磨病院リハビリテーション科医長　逢坂悟郎先生による「脳卒中地域連携パスの実際」という、今話題の2つのテーマでご講演いただきました。

懇談会終了後の懇親会も、今まで以上に盛り上がり、盛会のうち終了致しました。

（地域医療・総合相談センター）

第5回神戸メディカルラリーで優勝しました！

平成20年5月10日（土）、三木市の兵庫県広域防災センターにおいて、第5回神戸メディカルラリーが開催され、12チームが競い合う中「兵庫医大 team DEC」が優勝しました。当院から救命救急センター医師2名（橋本医師・山田医師）と8-1病棟看護師2名（竹内看護師、村井看護師）に加え、西宮市消防局から2名の救急救命士（山田救命士、小玉救命士）の協力を得て参加しました。

メディカルラリーは、救急医療機関の医師と看護師及び消防機関の救急救命士が医療チームを組み、各種の災害や救急現場を想定したブースを回りながら、いかに迅速に的確に対応できるかを競う競技で、同様のラリーが全国的に開催されています。昨年も当院のチームは三位の好成績でした。

今回は10カ所のブースが設定されました。各チームは現場で初めて想定を告げられ、混乱した状況の中で、迫真の演技をする模擬患者を救出するため、日頃培った知識と技術を最大限に発揮して奮闘しました。

（救命救急センター）

兵庫医療大学

学長×学生
兵庫医療大学
座談会

学部、教員・学生の垣根を 越えて コミュニケーションをとって ほしい

松田　暉学長

三宅　照久さん
1年生・薬学部

伊原　充晃さん
1年生・リハビリテーション学部

北　麻美子さん
1年生・看護学部

学部を越えたコミュニケーションが楽しい

松田学長：入学して3ヶ月経ったけど、皆さんどうですか。

三宅：僕は大阪から通ってるんですけど、思ったより遠かったですね（笑）。大学自体は思った以上に伸び伸びとしています。薬学部はカリキュラム的にも選択が多いので、看護学部やリハビリテーション学部と比べれば1年生のうちは自由度があると思います。

学長：友達は沢山できた?

三宅：アドバイザーグループを通じて看護学部やリハビリテーション学部の友達も結構いますね。

学長：そういう意味では、3学部混成でのアドバイザーグループはうまくいってるんだね。

北：他の大学では、同じ学部の友達しかできないと聞きますけど、私も看護学部と同じくらい他の学部の友達がいます。そういう面ではすごいことだなと思うし、楽しい大学ですね。

学長：授業はどう?

北：忙しいですね。でも、医療概論の授業では、グループで発表をしていくんですけど、皆で集まって考えたり準備するのは楽しいですね。

学長：自主性を持ってやっていくという目的を学生諸君がきちんと理解してくれてるということかな。そういう意味ではチュートリアル教育も成功してるのかな。伊原君はどう?

伊原：リハビリテーション学部は想像以上にカリキュラムが大変。授業もつまっていて選択科目が少なく、自由度はあまりないと感じました。でも、慣れてくるとその中で楽しみも見つかり、先生方の熱意も伝わってきて、やる気がどんどんでてきますね。

学長：先生方の強い熱意は伝わってますね。本学の薬学部の特徴の一つでもあるのだけれど、全国公募で採用したから、製薬会社勤めをしていた人、病院で診療していた医師、新薬の研究をしていた人など、熱意を持った、多彩な先生が多い。また、リハビリテーション学部理学療法学科の学科長がアメリカ人の先生、というのも珍しいでしょう。アンドリュー先生は日本語が堪能だし、フレンドリーで面白い先生。昨年は教員を相手に英会話教室をしてもらってましたよ。

伊原：アンドリュー先生は授業で真剣になってくると英語になるんです。だんだん理解できなくなって、皆笑ってしまいます（笑）。

学長：医療の現場ではコミュニケーションが大事です。自分の意見を言って、人の意見も聞いて。今の若い人は人前でしゃべるのはあまり慣れてないのかなと思っていたけど、チュートリアルの授業を見てたら、結構賑やかにやっていて安心しました。

北：医療を目指している人が多いからか、結構しゃべるのが

上手な人が多くて、先輩もフレンドリーに話しかけてくれますね。

三宅：知らない人でも、気軽に話してくれる人が多くて、この学校の環境自体がコミュニケーションをとりやすくなってるみたいですね。

三宅：先生も親しみやすい方が多いよね。

北：研究室にも遠慮せず聞きにおいでと言ってくれる先生もいらっしゃいます。

学長：ガラス張りでオープンな研究室がこの大学の売りだから、先生方にも部屋のブラインドは開けておくように言ってます。新しい先生も増えてるし、学生の皆さんは、ぜひ積極的に教員のところを訪ねて行ってコミュニケーションをとってほしいですね。

今、楽しみなこと!

学長：大学生活は楽しいですか?

北：今は秋の大学祭が楽しみですね。私は学生会に入ってるんですけど、企画の話し合いにも何度か参加させていただきました。

学長：兵庫医療大学の初めての学祭だから、盛り上がるでしょう。楽しみにしてます。

伊原：体育館とテニスコートの完成が待ち遠しいですね。

学長：体育館の工事はやっと始まったところですが、来年3月にはオープンします。

伊原：その他の施設の計画はあるんですか?

北：食堂もこれから学生の数が増えた時に、席がないんじゃないかって思うんですけど。

学長：講義室とか、チュートリアルのグループ学習室がもっと必要ですね。リザーブ用地に将来建物を建てる計画はあります。ただ、食堂の増設計画はないですよ。実習などで学校にいないことが多くなることもあるし、食堂のことはあまり心配してはいません。グラウンドに関しては、近くにある関西電力のグラウンドを借りる契約をしました。

伊原：夏休みのクラブ活動にも使えそうですね。

学長：あとは、リザーブ用地にフェンスを立てるなりして、サッカーとかできるようにならないかとは考えてます。そうそう、サークルも活発にやっているようですね。

北：そうですね、1・2年生だけなのにしっかりしてると思います。

学長：野球部なんか対外試合もやってますね。水泳部でも入賞したみたいだし、ジャズクラブがライブをしたとか、活動についてはよく聞きます。学生生活というのはカリキュラムももちろんだけど、貴重な4年間、6年間だから、教養を広げることや友達を作ることにも時間を大切に使って下さい。

早期臨床体験実習

学長：この大学には、医療現場で働こうという高い目標を持った学生が集まっているけど、自分の将来像ははっきりしている?特に、薬学部はたいへんだってよく言われるでしょう。

三宅：もっと勉強しないと厳しい、と国家試験の過去問題とか見せられて脅されています。

学長：1年生のうちから意識するのも大事ですよ。薬剤師の仕事は看護やリハビリテーションの仕事と比べて見えにくいし、6年制になって1～2年生ではモチベーションが上がらないんじゃないかと心配してるんだけど。

三宅：でも、見えないからこそ調べようというか、積極的になる部分もあります。薬剤師と一口に言っても、企業勤務だったり病院勤務だったり職種が広いですし、もう職種を絞ってる人もいて、モチベーションが高い人も多いです。僕自身も、大学に来てから視野が広がりましたね。

学長：自分の将来のことだし、積極的にやっているのなら安心ですね。8月には病院の早期臨床体験実習がありますね。1週間ぐらい行ってきてほしいところだけど、1日半で実際の医療の現場を見ることになる。人によっては「まだぜんぜん臨床のこと教えてもらってないのに」とか、「看護師さんの仕事しかわからない」とかいろいろ意見もあるけど、患者さんやいろんな職種の人がどんなことをしてるのかをきちんと見てきてほしいと思う。患者さんから励まされることもあるしね。兵庫医科大学の看護部の方は非常に教育に熱心だから、実習の目的をきちんと理解して行けば、それぞれ得るところは大きいですよ。

北：空気を感じるだけでも、ためになると思います。

学長室のドアはいつも開けています

三宅：先生はどうしてこの大学の学長に?

学長：私は元々外科医でした。今もですがね。これまで大学病院と医学部で働いていたんだけど、医療というのは医師だけではもちろん駄目で、チーム医療が大切だということを実感してきました。日本の医療制度で問題なのは、医療従事者が少ないことです。私が学長をやって将来の看護師や薬剤師が急に増えるというわけではないけど、いろんな現場での経験から皆さんが進む道も知ってますからね。薬剤師は6年制になって、働く現場の制度なんかも変わっていくだろうしね。そういう意味で私の今までの経験が役に立つんじゃないかなと思っています。

伊原：なるほど。

学長：私自身は医療科学概論の授業を担当しているけど、それだけでは寂しいですよ。昨年は薬学部で講義させてくれって言っておしかけたけどね。もっと皆と交流できる機会を増やしたいと思っています。私の経験や医学のことを皆さんにもっと紹介したいですね。学長室のドアはいつでも開けていますし、4階の研究室もオープンにしています。学生の皆さんが、どんどん話をしに来てくれると嬉しいですね。

平成20年度科学研究費補助金交付決定

平成20年度科学研究費補助金（27件 総額52,545千円（うち直接経費42,150千円、間接経費10,395千円））の交付が下記のとおり決定しました。

（単位:千円）

所　属	研究代表者	研　究　課　題　名	交付決定額 直接経費	交付決定額 間接経費
特定領域研究				
薬学部	田中　稔之	リンパ節特異的な細胞動員シグナルによる制御性細胞の組織的特異的動員と自己応答性制御	4,800	——
基盤研究（B）				
看護学部	佐藤　禮子	外来通院がん患者の主体性を育成・支援する看護実践能力および外来看護実践方法の開発	2,500	750
看護学部	鈴木　久美	乳がん体験者との協働による一般女性と看護職のための乳がん予防啓発プログラム開発	3,800	1,140
看護学部	網島ひづる	外来化学療法を受ける肺がん患者の生活を支援する情報提供・相談システムの開発と評価	3,200	960
基盤研究（C）				
薬学部	甲谷　繁	ヘルスケアにつなげる光触媒型活性酸素パッチの開発	500	150
看護学部	平木　尚美	認知症高齢者グループホームにおける終末期ケアの研修プログラムの開発	500	150
薬学部	山本　悟史	神経因性疼痛発現における新規イオンチャネルの解析	1,500	450
薬学部	宮部　豪人	ラジカル種の特性を活用した新規合成法の開拓	1,000	300
薬学部	伊藤　壮一	パーキンソン病マウス神経障害におけるNa+/Ca2+交換系の役割	900	270
薬学部	大河原知水	EC-SODの抗酸化作用と生活習慣病の動脈硬化予防	1,700	510
看護学部	富永　真己	新卒看護師の職業性ストレスと離職意向に関する縦断研究:地域間における比較	1,200	360
看護学部	尾ノ井美由紀	知的障害者・児の肥満予防および改善プログラムの開発に関する研究	1,300	390
薬学部	田中　明人	光切断リンカーを利用した生理活性物質ターゲット探索方法の開発	700	210
薬学部	青木　俊二	内因性血管新生阻害物質活性化を標的とした天然由来新規抗がんリード化合物の創製	1,900	570
リハビリテーション学部	伊藤　斉子	「心の理論」高次テスト（日本版）は高機能広汎性発達障害の補助診断法として有効か?	1,900	570
薬学部	田中　康一	アストロサイトにおける酸化ストレスによるDNA修復酵素とヌクレオシド輸送体の変化	1,700	510
看護学部	土田　敏恵	ユビキタス・ネットワークシステムを活用した感染制御技術の向上	1,100	330
薬学部	戴　毅	炎症性メディエーターによるDRGニューロンの感作メカニズム	1,500	450
萌芽研究				
薬学部	前田　初男	酸化ストレスを可逆的に捕捉できるRedox応答型蛍光プローブの設計	1,300	——
看護学部	西村　明子	中高年男性のパタニティブルーズとうつ病発症との関連に関する研究	500	——
看護学部	鈴木　久美	C型慢性肝炎患者のセルフマネジメントを促す心理教育的グループ介入プログラムの開発	900	——
若手研究（スタートアップ）				
薬学部	塚本　効司	グルタミン酸を特異的に検出する蛍光プローブの開発	1,350	405
若手研究（B）				
薬学部	上田　寛樹	スクラップアンドビルトに基づく、蛋白質と遺伝子を併用した線維症治療用材料の開発	1,300	390
薬学部	中野　博明	Pex19pによるペルオキシソーム膜タンパク質輸送メカニズムの解明	900	270
リハビリテーション学部	坂口　顕	～温熱療法の可能性を広げる～　運動療法との併用による筋萎縮予防効果	1,900	570
薬学部	吉岡　英斗	PET癌検診へのアプローチ:低分子68Ga標識プローブおよび11C標識法の開発	1,200	360
看護学部	高山　京子	がん臨床試験に参加する患者のセルフ・アセスメント能力向上のための教育用ツール開発	1,100	330

2008年度 第1回オープンキャンパス

今年度初回のオープンキャンパスは、例年より約1カ月早い6月22日（日）に開催しました。梅雨真只中ということもあり、当日は朝からあいにくの雨でしたが、たくさんの方々に来場いただきました。昨年度はレストランがオープンしていなかったため、止む無く午後からのスタートとしましたが、今年は10時からのスタートとして、来場者の方々にはレストランもご利用いただきました。

当日は、大学全体ガイダンスと学部メインイベントを午前と午後の2部制として、並行して教員・学生との交流コーナー、キャンパスツアーなどを常時受付とし、何時から参加しても、ほぼ同じプログラムを体験できるよう構成しました。参加者アンケートによると、学部のメインイベントはもちろんのこと、全体ガイダンスの中で実施した、本学の最も特徴的な科目の一つである1年次の3学部合同科目「医療科学概論」の講義、グループワーク、兵庫医科大学病院での3学部合同早期臨床体験実習などのDVD映像による授業紹介が、とても好評でした。

また、今回特筆すべきは在学生の活躍で、総勢50名もの1、2年生がボランティアスタッフとして参加してくれました。会場のいたる所で、元気で明るい在学生が教職員とともにイベントを盛り上げてくれたことで、来場者の皆様にも大学のアットホームな雰囲気を感じ取っていただいたことと思います。

今年のオープンキャンパスは、7月から8月にかけてあと5回予定していますが、いずれも皆様にご満足頂けるイベントにしていきます。

実習室見学コーナー

共通教育展示コーナー

平成21年度兵庫医療大学入学試験概要

推薦入学試験

（専願制）全学部

募集人員	＜薬学部　医療薬学科＞　約20名　＜リハビリテーション学部　理学療法学科＞　約10名 ＜看護学部　看護学科＞　約30名　＜リハビリテーション学部　作業療法学科＞　約15名
試験科目	外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）
出願期間	平成20年10月29日（水）～11月6日（木）消印有効
試験日	平成20年11月15日（土）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成20年11月26日（水）

（併願制A日程）薬学部　　**（併願制B日程）薬学部**

募集人員	＜医療薬学科＞　約10名	＜医療薬学科＞　約10名
試験科目	外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）	外国語（150点）、小論文（100点）、調査書（100点）
出願期間	平成20年10月29日（水）～11月6日（木）消印有効	平成20年11月19日（水）～11月29日（土）消印有効
試験日	平成20年11月16日（日）	平成20年12月6日（土）
試験場	兵庫医療大学	兵庫医療大学
合格発表	平成20年11月26日（水）	平成20年12月12日（金）

（指定校推薦入学制度）薬学部　　※募集要項は、本学が指定する高等学校の学校長宛に直接送付します。

募集人員	＜医療薬学科＞　約10名

一般入学試験

（前期A日程）全学部

募集人員	＜薬学部　医療薬学科＞　約60名　＜リハビリテーション学部　理学療法学科＞　約25名 ＜看護学部　看護学科　＞　約65名　＜リハビリテーション学部　作業療法学科＞　約12名
試験科目	＜薬学部　医療薬学科＞　外国語（100点）、数学（100点）、理科（化学）（100点） ＜看護学部　看護学科＞　外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点） ＜リハビリテーション学部　理学療法学科＞　外国語（100点）、数学（100点）、理科選択（化学または生物）（100点） ＜リハビリテーション学部　作業療法学科＞　外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
出願期間	平成21年1月5日（月）～1月24日（土）消印有効
試験日	平成21年1月31日（土）
試験場	＜薬学部、リハビリテーション学部＞　兵庫医療大学　＜看護学部＞　神戸ポートアイランドホール（通称＝ワールド記念ホール）
合格発表	平成21年2月17日（火）

（前期B日程）薬学部、リハビリテーション学部

募集人員	＜薬学部　医療薬学科＞　約30名　＜リハビリテーション学部　作業療法学科＞　約8名
試験科目	＜薬学部　医療薬学科＞外国語（100点）、理科（化学）（100点） ＜リハビリテーション学部　作業療法学科＞外国語（100点）、数学（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
出願期間	平成21年1月5日（月）～1月24日（土）消印有効
試験日	平成21年2月1日（日）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成21年2月17日（火）

（後期日程）全学部

募集人員	＜薬学部　医療薬学科＞　約10名　＜リハビリテーション学部　理学療法学科＞　約5名 ＜看護学部　看護学科　＞　約5名　＜リハビリテーション学部　作業療法学科＞　約5名
試験科目	＜薬学部　医療薬学科＞　外国語（100点）、数学（100点）、理科（化学）（100点） ＜看護学部　看護学科＞　外国語（100点）、国語（100点）、理科選択（化学または生物）（100点） ＜リハビリテーション学部　理学療法学科、作業療法学科＞　外国語（100点）、小論文（100点）、理科選択（化学または生物）（100点）
出願期間	平成21年2月9日（月）～2月21日（土）消印有効
試験日	平成21年2月28日（土）
試験場	兵庫医療大学
合格発表	平成21年3月10日（火）

※詳しくは平成21年度学生募集要項をご確認ください。

お　知　ら　せ

兵庫医療大学第2回保護者懇談会を開催します

日時：9月27日（土）　15時～
場所：兵庫医療大学オクタホール
内容：1.全体説明
2.学部別懇談会
3.個別面談
4.懇親会

※個別面談を行いますので多数のご出席をお願いいたします。

学生相談室主催イベント「自分ってどんな性格？」を開催しました

学生相談室の存在を身近に感じてもらい、学生生活で悩んだとき、気軽に利用してもらえるような環境づくりの一環として実施しました。

当日はお誕生日会のような飾り付けのウェルカムボードを部屋の前に置き、オルゴール調の音楽でリラックスムードの会場に、コーヒーと紅茶で参加者を出迎えました。

会場の雰囲気をみて飛び込みで参加する学生もおり、当初の不安をよそに、初日は募集人数以上の参加者が集まりました。

大和田相談員が参加者とコミュニケーションをとりながらエゴグラムについて説明を行い、いよいよ検査開始。学生は配られたお菓子に気を取られながらもエゴグラムの検査シートとにらめっこ。大和田相談員から検査結果の解説が始まると、参加者は一喜一憂しながらも、楽しげに友達やスタッフと検査結果について談話していました。会は終始和やかで、スタッフにとってもとても楽しい一日になりました。

今年度は11月ごろにもう1度学生相談室主催の実施を予定しています。より参加者に楽しんでいただけるようスタッフ一同さらに創意工夫していきたいと考えています。

実施日：平成20年6月3日、6月5日　募集人数：1日あたり15名
主な内容：エゴグラムによる心理分析、解説

看護学部 特別講義を開催しました

平成20年6月16日（月）15時より、特別講義「社会福祉国家デンマークにおける社会福祉・看護・介護の現状について」を開催いたしました。講演内容は、デンマーク在住41年の千葉忠夫氏（日欧文化交流学院長・バンクミケルセン記念財団理事長）による「デンマークの社会福祉：高齢者福祉を主として」をはじめに、Lisa　M. Berrig（訪問看護師）の「デンマークにおける訪問看護制度・訪問看護師の責任・訪問看護支援の対象」のテーマのもと、訪問看護の現状を実際の活動を踏まえて講義が展開されました。特別講義の最後は、講義室から基礎看護学実習室へと会場を移し、Anna Jensen（社会保健介護助手）よりホームヘルパーの任務・補助器具を使用したベッドから車椅子への移乗法が実演されました。

「民主主義150年」の歴史を背景に“ 人間が中心にいる福祉 ”を実践してきたデンマークの国民一人ひとりの民主主義への意識の高さは幼児期から培われ、その意識は社会福祉のみならず、労働環境の法律にまで及んでいる事実に、日本における意識改革の必要性を痛感した次第でした。

地域交流プロジェクト開始

地域連携推進センター長　土居　洋子

ポートアイランドとその近隣にお住まいの方々の健康の充実のために、地域交流プロジェクトを始めました。住民の方々の健康の維持・増進・回復のために、新しい講座を考え出したもので、平成20年度は下記の2つをご紹介いたします。

プロジェクト1　「高齢者を介護する人のための支援～そのときあなたが困ったら～」

看護学部
大町教授・平木講師

地域の人と大学の連携・交流を図ることを目的として、家族を介護している方の介護負担感を軽減するための支援をします。6月28日（土）は『介護を継続する秘訣』、7月26日（土）は『ストレス発散法』について講演と介護相談を行い、30～40名の参加がありました。10月18日（土）は『腰痛予防のための工夫』、11月12日（土）は『介護保険の概要』、1月17日（土）は『社会資源の利用方法』を予定しています。定員：30人、参加費：無料です。お気軽にお越しください。

プロジェクト2　～介護予防・生きがいづくりを応援する～『ポーアイ65歳大学』開講

リハビリテーション学部
伊藤准教授・有吉講師

人生の円熟期を迎えたシニア層の方にとって、これまでの人生を振り返ったり、趣味などによって生活を豊かなものにすることは、介護予防や生きがいづくりのためには、とても大切です。しかし、ひとりで行うのはなかなかむずかしいのではないでしょうか？

そこで研究の一環として、ご参加いただく方と一緒に、どのような予防的プログラムが最善かを考えたり、心豊かな時間を過ごしていただくために、『ポーアイ65歳大学』を開講しました。25名の方にご応募いただき、6月27日の開講式とプログラム第1回目には、晴天の中、参加者をお迎えして和気藹々とした時間を過ごしていただきました。

今後、月2回（第2・4金曜）、2月13日の修了式まで、生きがい（夢）づくりプログラム（全16回）を実施します。

規程等の制定・改正（規程等の全文は学内ネットに掲載）

No	項　　目	制 定 ・ 改 正 の 趣 旨	制定・改正日
1	兵庫医科大学 先端医学研究所規程	家族性腫瘍部門が廃止されたことに伴う改正	平成20年4月1日改正
2	兵庫医科大学 発明規程	発明規程を兵庫医科大学知的財産ポリシーに沿った形とし、適用対象者・発明者への報償の変更、技術移転機関には依存しないこととする、担当事務を学務部とする等の変更について改正	平成20年6月17日改正
3	兵庫医科大学 発明委員会規程	委員会の審査・協議事項について、発明規程に沿った形にし、担当事務を学務部とするための改正	平成20年6月17日改正
4	教員選考に関する規程	臨床系教授の選考に当って病院長の意見を反映させるため委員の中に病院長を職指定として加えるための改正	平成20年7月1日改正
5	兵庫医科大学 動物実験施設規程	「実験動物取扱責任者」を「世話人」に、また世話人で構成される会議を「動物実験取扱責任者会議」から「施設利用者会議」に変更するための改正	平成20年7月15日改正
6	兵庫医科大学 動物実験施設運営委員会規程	同　　上	平成20年7月15日改正
7	兵庫医科大学 成果有体物取扱規程	研究開発成果有体物の利用に関する規則の整備について、文部科学省が示した「研究開発成果としての有体物の取扱いに関するガイドライン」に沿って制定	平成20年7月15日制定
8	兵庫医科大学 大学院学則	教授の交代に伴う専門分野の変更及び外科学講座の再編等により、科目名を変更するための改正	平成20年7月28日改正
9	中央放射線部運営委員会規程	中央放射線部の運営について協議するため病院部長会に中央放射線部運営委員会を置く規程を制定	平成20年4月1日制定
10	がん登録委員会規程	地域がん診療連携拠点病院に指定され、より広い情報と意見を求めるため委員会構成員にがん治療を専門とする医師1名を加えるための改正	平成20年6月19日改正
11	病院長選考規程	病院長選考規程の病院長選考時期、候補者の資格、病院長の専任、兼任の取扱等について変更し、病院長候補者選考委員会内規を同規程に盛り込むための改正	平成20年6月23日改正
12	診療録管理委員会規程	個人情報保護法に関連して専門的立場から協力を得るため委員に臨床遺伝部から選出された者を加え、診療録や診療伝票について検討するため医事課長を委員に加えることに伴う改正	平成20年7月24日改正
13	時間外分娩手当にかかる暫定内規	周産期医療体制の危機的状況の中、深刻な産科医不足を踏まえ、処遇改善のため時間外分娩手当を支給するため制定	平成20年8月1日制定
14	兵庫医療大学 研究支援者取扱規程	兵庫医療大学における研究活動の促進を図るため研究支援者の採用等に関し必要な事項を制定	平成20年4月1日制定
15	兵庫医療大学 倫理審査委員会規程	兵庫医療大学及び関連施設で行われる人間を直接対象とする研究がヘルシンキ宣言の趣旨に沿って倫理的配慮のもとに行われることを目的として置く倫理審査委員会について制定	平成20年6月17日制定
16	兵庫医療大学 先端医薬研究センター規程	薬学部に医学及び薬学部の関連分野の研究推進を図るため設置する先端医薬研究センターに関する必要な事項を制定	平成20年6月23日制定
17	兵庫医療大学 先端医薬研究センター運営委員会規程	先端医薬研究センターの運営に関する事項について協議し具体的問題を処理するために置く運営委員会について必要な事項を制定	平成20年6月23日制定
18	兵庫医療大学 動物実験センター規程	研究・教育のための動物実験並びに実験動物の飼育管理を行うため設置する動物実験センターに関する必要な事項を制定	平成20年6月23日制定
19	兵庫医療大学 動物実験センター運営委員会規程	動物実験センターの運営に関する事項について協議し具体的問題を処理するために置く運営委員会について必要な事項を制定	平成20年6月23日制定
20	兵庫医療大学 受託研究規程	兵庫医療大学における受託研究に関する規程を制定	平成20年7月15日制定
21	兵庫医療大学 動物実験規程	動物実験センターの開設のあたり、動物愛護及び実験動物の飼育に関する法律、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針及び動物実験の適正な実施に向けたガイドライン等を踏まえて、動物実験に関し遵守すべき事項を定め、適正な動物実験の実施を図るため制定	平成20年7月15日制定
22	兵庫医療大学 動物実験委員会規程	同　　上	平成20年7月15日制定
23	学校法人兵庫医科大学 医学・医療教育研修センター規程	医学・医療の進歩及び社会の変化に即応し、兵庫医科大学と兵庫医療大学が連携して医療専門職者の臨床教育を包括的に推進するために学校法人兵庫医科大学医学・医療教育研修センターを置く規程を制定	平成20年6月1日制定
24	学校法人兵庫医科大学 医学・医療教育研修センター 運営委員会規程	学校法人兵庫医科大学医学・医療教育センター運営委員会規程の目的に研修を含めて拡大し、審議事項・協議事項及び委員会委員を改正	平成20年6月1日改正
25	事務局管理職任期制度に関する 暫定内規	事務局の活性化、管理職者の意識の高揚、人材の適正配置を図るため事務局の管理職位に任期制度を導入するため制定	平成20年8月1日制定

兵庫医科大学　兵庫医科大学病院　兵庫医療大学　学校法人兵庫医科大学

平成19年度決算について

平成19年度は、4月に兵庫医療大学が開学し、教育・研究を中心とした大学運営の礎石の構築と、大学としての今後の方向性を決める重要な年度でした。一方、兵庫医科大学は、教育機能の強化、大学院の拡充や外部資金獲得戦略等を推進すること、また、兵庫医科大学病院では、病床運営の改善、医療経費の削減及びがんセンター設立に伴う環境整備、PETセンター運営事業をはじめ各課題の効率的な改善が求められた年度でした。こうした状況の中、学校法人全体の決算の帰属収支差額は、対前年度比535百万円悪化の△904百万円となり、非常に厳しい結果となりました。

収入面では、学生納付金が前年対比増となりました。これは、当然のことながら兵庫医療大学に学生納付金収入が発生したことによるものです。医療収入は、診療報酬、介護報酬とも19年度は大きな改定がなかった年度ですが、病院の入院収入では、病床稼働率が前年度対比やや落ち込みが続いたものの、7:1看護実施による入院基本料の増、診療単価の増、平均在院日数の短縮及び外来患者数の若干の増などで全体としては、対前年度比10億円強の増となりました。結果、帰属収入合計は対前年度比1,675百万円増の40,313百万円となりました。

支出面では、主に兵庫医療大学における教職員の採用による人件費増、病院における薬品費、医療材料費を中心とする医療経費の増及び教育研究経費の増も加わり、消費支出合計は、対前年度比2,210百万円増の41,217百万円となりました。

財務情報等公開にかかる閲覧要領に従い、寄附行為第35条で定められた書類（財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事による監査報告書）は、事務局財務部において閲覧に供しています。

財務部

消費収支計算書

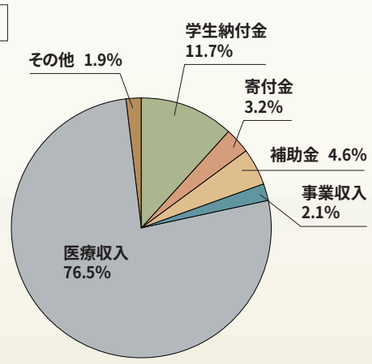
平成19年4月1日から平成20年3月31日まで　（単位:円）

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生納付金	4,680,570,000	4,713,977,500	△ 33,407,500
手数料	212,655,000	173,843,000	38,812,000
寄付金	1,635,108,000	1,296,560,833	338,547,167
補助金	1,931,327,000	1,871,598,655	59,728,345
国庫補助金	1,700,233,000	1,649,084,000	51,149,000
地方公共団体補助金	229,894,000	221,314,655	8,579,345
その他補助金	1,200,000	1,200,000	0
資産運用収入	188,630,000	249,212,680	△ 60,582,680
事業収入	31,292,252,000	31,675,815,271	△ 383,563,271
事業収入	672,976,000	841,690,714	△ 168,714,714
医療収入	30,619,276,000	30,834,124,557	△ 214,848,557
雑収入	599,731,000	331,655,977	268,075,023
帰属収入合計	40,540,273,000	40,312,663,916	227,609,084
基本金組入額合計	△ 3,523,864,000	△ 2,760,378,760	△ 763,485,240
消費収入の部合計	37,016,409,000	37,552,285,156	△ 535,876,156

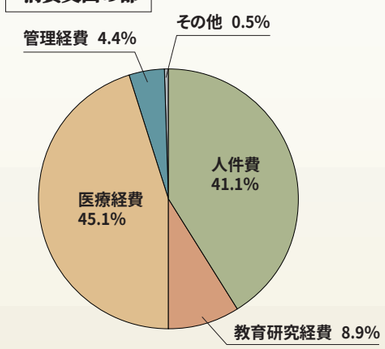
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	16,910,969,000	16,930,728,628	△ 19,759,628
教職員等人件費	16,359,441,000	16,377,292,288	△ 17,851,288
退職金	107,205,000	49,708,900	57,496,100
退職給与引当金繰入額	444,323,000	503,727,440	△ 59,404,440
教育研究経費	3,720,066,000	3,675,393,941	44,672,059
医療経費	18,408,359,000	18,590,384,955	△ 182,025,955
管理経費	1,929,050,000	1,798,930,884	130,119,116
借入金等利息	81,123,000	82,274,846	△ 1,151,846
資産処分差額	82,182,000	124,635,118	△ 42,453,118
徴収不能引当金繰入額	0	14,586,056	△ 14,586,056
徴収不能額	7,831,000	335,690	7,495,310
[予備費]	100,000,000	――	100,000,000
消費支出の部合計	41,239,580,000	41,217,270,118	22,309,882
当年度消費収支差額	△ 4,223,171,000	△ 3,664,984,962	――
前年度繰越消費支出超過額	31,698,267,540	31,698,267,540	――
翌年度繰越消費支出超過額	35,921,438,540	35,363,252,502	――

平成19年度決算構成比率

消費収入の部



消費支出の部



※帰属収入合計を100%とする。

資金収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで　（単位:円）

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生納付金収入	4,680,570,000	4,713,977,500	△ 33,407,500
手数料収入	212,655,000	173,843,000	38,812,000
寄付金収入	1,635,108,000	1,197,574,275	437,533,725
補助金収入	1,931,327,000	1,871,598,655	59,728,345
国庫補助金収入	1,700,233,000	1,649,084,000	51,149,000
地方公共団体補助金収入	229,894,000	221,314,655	8,579,345
その他補助金収入	1,200,000	1,200,000	0
資産運用収入	188,630,000	249,212,680	△ 60,582,680
資産売却収入	2,000,000,000	1,996,248,792	3,751,208
事業収入	31,292,252,000	31,675,815,271	△ 383,563,271
事業収入	672,976,000	841,690,714	△ 168,714,714
医療収入	30,619,276,000	30,834,124,557	△ 214,848,557
雑収入	599,731,000	331,655,977	268,075,023
借入金等収入	1,500,000,000	1,500,000,000	0
前受金収入	1,351,663,000	1,385,233,000	△ 33,570,000
その他の収入	5,758,111,600	5,797,013,697	△ 38,902,097
資金収入調整勘定	△ 3,673,871,000	△ 3,684,772,013	10,901,013
前年度繰越支払資金	4,589,390,349	4,589,390,349	0
収入の部合計	52,065,566,949	51,796,791,183	268,775,766

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	16,913,761,000	16,868,054,188	45,706,812
教職員等人件費支出	16,359,441,000	16,377,292,288	△ 17,851,288
退職金支出	554,320,000	490,761,900	63,558,100
教育研究経費支出	2,533,145,000	2,465,299,985	67,845,015
医療経費支出	16,402,026,000	16,650,229,117	△ 248,203,117
管理経費支出	1,860,467,000	1,737,397,620	123,069,380
借入金等利息支出	81,258,000	82,274,846	△ 1,016,846
借入金等返済支出	2,007,530,000	2,225,330,000	△ 217,800,000
施設関係支出	1,005,611,590	572,440,449	433,171,141
設備関係支出	1,675,230,000	1,115,953,821	559,276,179
資産運用支出	1,500,000,000	0	1,500,000,000
その他の支出	5,432,674,703	5,416,660,271	16,014,432
[予備費]	100,000,000	――	100,000,000
資金支出調整勘定	△ 5,040,844,041	△ 3,996,042,239	△ 1,044,801,802
次年度繰越支払資金	7,594,707,697	8,659,193,125	△ 1,064,485,428
支出の部合計	52,065,566,949	51,796,791,183	268,775,766

貸借対照表

平成20年3月31日　（単位:円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	55,617,312,907	57,823,777,645	△ 2,206,464,738
有形固定資産	52,978,270,629	54,543,484,074	△ 1,565,213,445
土地	15,440,731,332	15,440,174,673	556,659
建物・構築物	29,139,534,132	30,090,101,405	△ 950,567,273
教育研究用機器備品	7,012,291,487	6,828,132,050	184,159,437
図書	1,048,746,866	1,033,391,904	15,354,962
建設仮勘定	5,932,500	6,300,000	△ 367,500
その他	331,034,312	1,145,384,042	△ 814,349,730
その他の固定資産	2,639,042,278	3,280,293,571	△ 641,251,293
教育施設設備等引当特定資産	1,600,078,680	2,300,069,612	△ 699,990,932
退職給与引当特定資産	400,013,889	400,013,889	0
その他	638,949,709	580,210,070	58,739,639
流動資産	11,801,139,861	12,438,820,588	△ 637,680,727
現金預金	8,659,193,125	4,589,390,349	4,069,802,776
有価証券	399,964,722	2,397,621,077	△ 1,997,656,355
その他	2,741,982,014	5,451,809,162	△ 2,709,827,148
資産の部合計	67,418,452,768	70,262,598,233	△ 2,844,145,465

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	13,067,420,783	12,882,404,033	185,016,750
長期借入金	6,522,015,000	5,848,545,000	673,470,000
学校債	584,000,000	1,095,000,000	△ 511,000,000
退職給与引当金	5,813,524,623	5,750,850,183	62,674,440
長期未払金	147,881,160	188,008,850	△ 40,127,690
流動負債	6,178,357,120	8,302,913,133	△ 2,124,556,013
短期借入金	576,530,000	834,330,000	△ 257,800,000
学校債	40,000,000	670,000,000	△ 630,000,000
前受金	1,385,233,000	1,340,438,000	44,795,000
その他	4,176,594,120	5,458,145,133	△ 1,281,551,013
負債の部合計	19,245,777,903	21,185,317,166	△ 1,939,539,263

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	80,897,927,367	78,137,548,607	2,760,378,760
第4号基本金	2,638,000,000	2,638,000,000	0
基本金の部合計	83,535,927,367	80,775,548,607	2,760,378,760

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	35,363,252,502	31,698,267,540	3,664,984,962
消費収支差額の部合計	△ 35,363,252,502	△ 31,698,267,540	△ 3,664,984,962
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	67,418,452,768	70,262,598,233	△ 2,844,145,465

※注記　減価償却額の累計額　33,569,450,241円
　　基本金未組入額　5,674,592,865円

平成19年度私立大学等経常費補助金交付決定

平成19年度私立大学等経常費補助金として、1,503,243千円の交付が決定しました。補助項目の区分は次のとおりです。

（単位:千円）

	区　分	18年度	19年度	対前年度増減
一般補助	専任教員等給与費	566,575	731,932	165,357
	（退職金財団掛金）	（59,233）	（57,557）	（△ 1,676）
	専任職員給与費	280,930	360,301	79,371
	（退職金財団掛金）	（26,058）	（23,749）	（△ 2,309）
	非常勤教員給与費	798	1,646	848
	教職員福利厚生費	54,977	63,616	8,639
	教育研究経常費	175,225	51,275	△ 123,950
	厚生補導費	750	1,040	290
	研究旅費	6,556	8,237	1,681
	計	1,085,811	1,218,047	132,236
特別補助	外国人留学生の入学の推進	786	3,974	3,188
	教育研究拠点大学院重点経費	226,357	113,046	△ 113,311
	研究科特別経費	1,643	1,987	344
	夜間大学院等	988	3,410	2,422
	リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクター等支援	4,839	13,712	8,873
	教育・学習方法等改善支援	21,821	10,135	△ 11,686
	小人数教育の推進	6,000	—	△ 6,000
	単位互換の推進	3,500	2,981	△ 976
	外国大学等との学生の交流支援	457		
	ハイテク・リサーチ・センター	55,000	52,200	△ 2,800
	学術フロンティア推進	5,600	4,000	△ 1,600
	社会連携研究推進	12,300	11,700	△ 600
	オープン・リサーチ・センター	9,200	8,300	△ 900
	研究施設	7,800	7,353	△ 447
	大型設備等	14,600	21,661	7,061
	教員の異動に伴う教育研究環境整備	1,446	3,148	1,702
	任期付教員による研究の支援	11,066	10,493	△ 573
	情報通信設備（借入）支援	2,100	696	△ 1,404
	教育学術情報ネットワーク支援	5,022	5,763	741
	教育研究情報利用支援	7,213	9,737	2,524
	多元的評価支援経費	548	900	352
	計	398,286	285,196	△ 113,090
合　計		1,484,097	1,503,243	19,146

注:（　）内金額は内数を表す

兵庫医療大学のための募金　状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会（保護者）、緑樹会（卒業生）、名誉教授、退職者等（613名）は言うに及ばず協力医療機関や関連病院等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実に利用させて いただくとともにこれからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいりますが加えて、ぜひとも関係各方面からの更なるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

募金推進室

18. 5. 2〜20. 6. 30

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　計	
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額
申　込	344件	644,444,000円	613件	185,490,000円	957件	829,934,000円
入　金	306件	517,154,000円	605件	185,250,000円	911件	702,404,000円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

20. 5. 1〜20. 6. 30

企業等法人（26法人）

100,000,000円 株式会社　エイチ・アイ様
500,000円 株式会社　夏目製作所様
200,000円 伊藤喜商事　株式会社様
100,000円 ユニオン・メディカル　株式会社様
（ご芳名のみ記載）
株式会社　朝日工業社様
グラクソ・スミスクライン　株式会社様
アボットジャパン　株式会社様
株式会社　ユヤマ様
シグマテクノ　株式会社様
HOYA株式会社　メディカル事業部様
株式会社　衛生センター様
帝人在宅医療　株式会社様
有限会社　宝塚新樹園様
シミックCRC　株式会社様
小西医療器　株式会社様
株式会社　アズバイオ様
株式会社　大黒様
オリエンタル酵母工業株式会社　大阪バイオ営業所様
ナカライテスク　株式会社様
小林クリエイト　株式会社様
匿名　6社

後援会（1団体）

30,000,000円 兵庫医科大学　後援会様

建設中の体育館全景（神戸女子大学側から）
〈6月30日現在〉

兵庫医療大学体育館建設工事を着工しました

平成20年6月10日兵庫医療大学において体育館建設工事安全祈願祭が執り行われ、体育館建設工事を着工しました。来春には地上2階建ての体育館が完成します。体育館建設は学生からの要望の第1位でもあり、頂きました多額の寄付金により実現します。

完成予想図

安全祈願祭〈6月10日〉

運動・動作解析システムがお披露目されました

平成20年7月9日（水）午後2時から兵庫医療大学G棟3階309室において、運動・動作解析システム（Vicon）のお披露目がありました。教員によるセレモニーデモンストレーションの後、西日本旅客鉄道株式会社からの寄贈を受けて、松田学長が名盤を掲額しました。

前列右4番目から
西日本旅客鉄道株式会社
常務執行役員 福知山線列車事故ご被害者対応本部 部長 中村 仁様
顧問 垣内 剛様
福知山線列車事故ご被害者対応本部 福知山線列車事故相談室 次長 奈倉 宏治様
後列左から
福知山線列車事故ご被害者対応本部 担当課長 福澤 耕介様
大阪鉄道病院 事務部長 福永 剛様

※運動・動作解析システムは人の動作や活動を力学的、視覚的に3次元で記録し解析するシステムです。高精度の3次元方向を記録できる床反力計と3次元空間を記録する数台の高性能カメラ及び解析コンピューターからなり、データを記録し結果を視覚的に表示することが可能です。
使用目的は、障害者の歩行（平地や階段）や車椅子操作などの日常生活動作の解析によりリハビリテーション治療方針の決定、効果の判定、切断者の義肢の評価などです。今後増加が予想される高齢者転倒骨折の予防プログラムの開発にも期待できます。また、運動療法の開発やリハビリテーション機器の開発、義肢装具の開発、治療法の開発、バリアフリーな都市構造や家屋開発に必要なデータの収集が可能です。速い動作解析にも可能な精度であるため、障害者のみならず、健常者やスポーツ選手の動作解析（投球動作やジャンプなど）も可能でありその応用範囲も広いシステムです。
（説明：兵庫医療大学 リハビリテーション学部長 土肥 信之）

卒業生紹介

第17期生
辻　洋子 さん
小説家

1.法医学教室が舞台の小説を執筆

法医学の現場を離れ、神戸医療福祉専門学校三田校の非常勤講師として、法医学及び解剖学を教えるかたわら、小説家として執筆活動に励んでいます。

一般の方には、法医学はまだまだ馴染みが薄く、また得体の知れない学問であると思われていることを知り、小説という娯楽を通して少しでも理解を深めて頂ければ……と思っています。

現在、講談社ノベルスから「鬼籍通覧シリーズ」という法医学教室が舞台となった小説を書き続けています。今年6月には、その最新刊「亡羊の嘆」が出たばかりです。

2.学生時代の思い出

学生時代、細菌学教室前教授、田村俊秀先生のお部屋に時折お邪魔して、お話を聞くのがとても楽しみでした。若かりし頃の無茶や、主にネパールにおける医療協力活動について気さくに語ってくださり、講義ではできない勉強をたくさんさせて頂きました。

恩師といえば真っ先に思い浮かぶ田村先生は、教授退任後、臨床に復帰され、離島医療に携わっておられます。年齢に関係なく夢を持ち続け、それに向かって邁進する姿勢に、学生時代と変わらず学ばせて頂いています。

また、ポリクリ中、受け持たせて頂いた患者さんの元に毎日通ううち、次第に打ち解けて色々とお話を伺ったことも、大切な思い出です。ご自身が病気になったことへの憤り、悲しみ、それまでの生活を振り返っての反省、ご家族への気持ち、回復への熱意、そして不安や期待……様々な心情を語って頂き、医療従事者というのは、病だけでなく、患者さんの心も引き受けなくてはいけない職業なのだと痛感しました。身の引き締まる思いがしたのと同時に、とても高い壁を見上げているような気分になったことも覚えています。

3.法医学者として学んだこと

大阪医科大学法医学教室に入ってからは、前教授の故溝井泰彦先生に、法医学者として、研究者としての心構えを教わりました。物言わぬご遺体から可能な限り多くの情報を頂くために必要な根気、わからないことはわからないと真正直に認める潔さなど、駆け出しの私には驚くことばかりでした。

また、現教授の鈴木廣一先生からは決して驕らず、実直に仕事を続けることの大切さと難しさを身をもって教えて頂き、兵庫医科大学法医学教室前教授の菱田繁先生にも、素晴らしい解剖手技を見せて頂いて、多くを学ばせて頂きました。

4.兵庫医科大学に期待すること

兵庫医療大学も開校し、ますます多くの人たちに名前を覚えてもらえる機会が増えてきたと思います。医療過誤や訴訟で名前を聞くのではなく、地域の人たちに頼られる医療機関として、また評判の高いドクターやコメディカルの出身校として、兵庫医科大学・兵庫医療大学の名前を聞く機会が増えていくことを、卒業生として心より願っています。

5.学生の皆さんへ

兵庫医科大学の学生さんのいちばんの強みは、あらゆる意味でリベラルであることだと思います。伝統に縛られることのない自由な校風を満喫し、のびのびと個性を伸ばしていってください。

あるいは私のように、医療の現場から離れる方もいらっしゃるかもしれませんが、どんな道を選んだにせよ、学生時代に学んだこと、医師として経験したこと、患者さんや他の医療従事者・研究者との出会いなど、無駄になることは何ひとつありません。

人生の分岐点に立つたび、何かを切り捨てるのではなく、頭と心の引き出しを増やす生き方をしてほしいと思います。

略 歴

平成 6年3月	兵庫医科大学卒業
平成10年3月	大阪医科大学大学院社会医学科修了
平成10年4月	大阪医科大学法医学教室助手
	兵庫県非常勤監察医（平成13年まで）
平成13年6月	大阪医科大学法医学教室　非常勤教員

職場 REPORT リポート

患者さんの最高のゴールを目指して

リハビリテーション部　助教｜古河　慶子さん

兵庫医科大学病院

リハビリテーション部

患者さんのQOL向上のために

リハビリテーション部では、中枢神経や脊髄、骨・関節などの疾患や、切断などによって生じるさまざまな障害に対して、理学療法・作業療法・言語療法により総合的なリハビリテーション医療を行います。その中には、嚥下リハビリテーションや、筋電図検査、義肢・装具の作成や適合判定などのほか、家屋調査や復職にかかわる問題、障害を受けた後の心理的問題、介護保険による介護を受けている方の運動機能の維持やリハビリテーションについてのアドバイスなども含まれています。

現在、力を入れていることの1つがCI療法。脳卒中などでみられる片麻痺の場合、これまでは麻痺していない方の上肢（健側上肢）で代償する訓練を行うことが一般的でした。これに対しCI療法は、一定の基準を満たしているのであれば、健側上肢を三角巾などで使えないようにした上で、麻痺した方の上肢（患側上肢）を1日5時間×10日間、集中的に訓練するもの。脳卒中になって何年も経過した方でも効果が実証されています。

患者さんのためになることをし続けたい

リハビリテーション部には現在、医師5人、理学療法士22人、作業療法士9人、言語療法士4人がおり、雰囲気はとてもアットホーム。医師には転科の先生も多く、麻酔科や産科などいろんなバックグラウンドがあるので、知識が共有できて助かっています。私個人は、はじめからリハビリテーションの医師を希望しました。きっかけは、単純に人材不足だと聞いたから。先輩がいなくて、最初は「リハビリテーションとは何なのか」ということさえもわからず、また療法士のやることも学校で学んだわけではないので、医師になってから苦労して勉強しましたね。

やりがいを感じるのは、職場の方との面談を経て患者さんが職場復帰された時や、例えば、趣味で絵付けをされている患者さんの作品のタッチがだんだんしっかりしてきたのに気づいたような時。これからも患者さんのためになることをし続けたいと思います。

大切なのはコミュニケーション能力

リハビリテーションで処方するのは薬ではありません。その分、医師の主導権だけではなく、医師と療法士が力を出し合って患者さんにとっての最高のゴールは何なのか考える、チームアプローチが大切だと感じています。また、主科の医師の判断を邪魔することなく、縁の下の力持ちとして患者さんを支えるためには、コミュニケーションも重要。病棟カンファレンスにも参加しながら、医師や看護師とコミュニケーションをとり、情報交換を行っています。これからリハビリテーションを志す学生の皆さん、ぜひコミュニケーション能力とチームワークを養ってください。

CI療法
～脳卒中リハビリテーションの新たなアプローチ
道免 和久編集

CI療法の理論とメカニズム、実践方法、導入のノウハウなどを臨床医、療法士、研究者に向けて解説した本。2008年6月発刊。

職場 REPORT リポート

中央手術部

手術室看護にやりがいを感じています！

看護部　中央手術部　主任｜木村　幸子さん

兵庫医科大学病院

看護部　中央手術部

チーム医療を実践しています

手術室は、通常手術室に加え、内視鏡手術室やバイオクリーン手術室など16室、17手術台が稼動しており、年間8,000件以上（平成19年度）の手術を行っています。現在、中央手術部には49名の看護師がおり、手術の器械出しを行う「器械出し看護師」と、その他手術をスムーズに行うための「外回り看護師」の大きく2つに分けられ、医師やコメディカルと共にチーム医療を実践しています。心臓手術などは長時間におよぶ場合もありますし、眼科などの手術の場合、1日に10件ほどの手術に入ることもあります。患者さんから目と手を離さず、瞬間の変化を見逃さないことが大切なので、集中力が必要です。手術中は緊張感から疲れなどはあまり感じませんが、終わった後しばらくすると一気に疲れが出ることも。そんな緊張感を共有するからこそ、スタッフ間の仲間意識は高く活気があり、チームワークがスムーズに取れるのだと思います。集中力、緊張感を維持するためには、気持ちの切り替えをしっかりし、日々、新たな気持ちで看護していくことを心がけています。

手応えがすぐに返ってくる仕事

私は今年で11年目ですが、配属前には「手術室は怖い」というイメージが強く、いきたくない部署の一つでした。配属されてからも研修とは違うというリアリティショックもあり、その奥深さに気付いて面白いと感じるまでに、4、5年かかったと思います。この仕事の魅力は、いかに先読みし、見えない部分を見て変化をキャッチしていくかということ。瞬間の判断力・アセスメント能力も求められます。その反面、手応えも瞬間で返ってきて、結果がすぐ次に生かせる。自分の能力を最大限に発揮しながら、経験の中で学んでいる実感がありますね。今では手術室看護にやりがいを感じています。

患者さんとの時間は大切

手術室は、患者さんにとっても怖い場所だと思います。患者さんと関わるのは、術前・術後訪問など、本当に限られた時間。その患者さんと触れ合える少ない時間を大切に、いかに温かく関わり、短時間で患者さんを理解し、安心していただけるかを意識しています。大きな手術や緊急手術の際には「患者さんがたいへんな状況にあるのに帰れない」と、勤務時間外でも自主的に残ってサポートしてくれるスタッフも多く、患者さんに対する温かさとチームとしての意識の高さを感じます。

手術室看護については学ぶ機会も少なく、手術室を希望する看護師は少ないのが現状ですが、「チームで働くことが楽しい」と実感できる場所だと思います。イメージにとらわれず、手術室看護を希望する看護師が増えてほしいですね！

職場 REPORT リポート

医療と福祉の間で困っている人の助けとなりたい

リハビリテーション学部　作業療法学科　講師｜佐野　恭子さん

兵庫医療大学

リハビリテーション学部

モチベーションを持続させることが大切

本学科では、9名の先生方が作業療法士を目指す学生の教育にあたっています。ここで言う「作業」とは、食事や歯磨き、家事や仕事など、人が日々行う動作のこと。障害を持った方がその人らしい生活を送れるよう支援するのが、作業療法士の仕事です。

本学科における、まとまった期間の臨床実習は3年生後期からになります。それまでの間、いかに座学で作業療法士として必要な知識・技術を学習させるか、臨床の面白さを伝え学生のモチベーションを持続させるかが大切だと感じています。

臨床に入れば、患者さんから薬のことを聞かれたり、治療方針などでチームとしてのコンセンサスをとるために、また自分の守備範囲にとらわれないためにも、他のスタッフが何を学び、何を考えているのかを知っているのは大事だと思います。そういう意味で、本校のボーダーレス教育は素晴らしいと思います。

患者さんの話を興味・関心を持って聞き、冷静に受け入れることができるようになるためにも、いろんな経験をすることも大切。私自身、学生時代はバイトの鬼でしたが、その中でたくさんの人の価値観に触れることができ、対人援助職に必要な資質の一端を学べたと感じています。学生の皆さんには、遊びや習い事などを通して、好奇心のアンテナをたくさん張ってほしいですね。

作業療法学科教員：前列左から：山田（学科長）、土肥（学部長）、山﨑、後列左から：櫛辺、湖海、有吉、佐野、伊藤、稲富（敬称略）

患者さんと接する時に大事なこと

私の専門は、高次脳機能障害の作業療法です。高次脳機能障害とは、事故や脳出血・脳梗塞などにより脳に生じた認知機能の障害のこと。症状としては、不注意、無気力、記憶力の低下などで、本人や家族の自覚がない場合も多く、精神疾患と誤解されたり、周りの理解が得られにくいことがあります。

患者さんと接する時に注意してきたことは、言葉と同じくらい、あるいはそれ以上に、表情など言葉以外から発せられるサインを読む、ということ。患者さんがどんな生活をしてきて、今どんな状況で、今後どう生きていくか。そこに向き合うためには、きちんと話をし、試行錯誤しながら一緒にやっていくことが大事。患者さんと治療者の共同作業とも言えると思います。

夢は作業所やデイサービス施設を作ること

自助具：手の機能に合わせて動作を助ける道具。作業療法士が提案します。

私は大学時代、臨床心理士を目指していました。ただ、学んでいくうちに、言葉だけを使って1対1で向かい合うことに疑問を持ち始め、その頃リハビリ助手として病院でアルバイトしたことがきっかけで、作業療法士への道へ進むことになりました。

兵庫医科大学病院でも10年間働きましたね。スタッフ間のコミュニケーションが良く、患者さんと介護する家族の意思と生活を尊重しながら、ともにゴールを考えられる点が特長だと思います。

今は、臨床で15年間やってきた経験を生かして作業療法の素晴らしさを後輩に伝えていきたいと思っています。そしていつか高次脳機能障害者の作業所やデイサービス施設のようなものを作りたい。高次脳機能障害者は地域に戻っても周囲から受け入れられにくく、医療と福祉の狭間で困っている人もまだたくさんおられます。そのような方々とご家族が前向きに暮らしていくために何らかのお手伝いをしたい。それが夢ですね。

我が家のモルモット、まーくん。疲れも吹っ飛びます。

Join us! 第3回 ～課外活動紹介～

兵庫医科大学

秋のリーグ戦に向けて、頑張っています！

アメリカンフットボール部　部長　4年生　宮内　雅弘さん

現在、23名が毎週火・木・土曜日、鳴尾浜グラウンドで練習しています。先輩・後輩、部員・マネージャーの垣根を越えた仲の良い部です。皆でボウルゲーム観戦に出かけたり、キャンプに行ったりもします。この春、新入生の部員2名、マネージャー4名を迎え、新たな気持ちで練習しています。

アメリカンフットボールは選手一人ひとりの個性や能力を活かしながら、一丸となって相手チームを倒すところに面白さがあります。学年・ポジションに関係なく、声を出し合って部を盛り立て、互いを高めあうチーム作りを目指しています。

関西学生アメリカンフットボール連盟の秋のリーグ戦に向けて、全力で頑張っています。応援よろしくお願いします!!

大会で好成績を狙います！

空手道部　部長　4年生　矢持　佑季さん

現在、22名で活動しており、基本の型から始まり、組手など、男女一緒に練習しています。組手が1対1なこともあり、学年を越えて仲良くなります。また、1年生以外にも、新入部員が多いのが特徴です。最近の積極的な取り組みとしては、体力トレーニングの為に練習の最後に「ダッシュ（腿上げ）」をしています。きついですが、練習後は案外爽快です。先日、空手道部卒業生の結婚式で演武を披露しました。大成功でした!

空手は個人競技ですが、お互い刺激しあって全体的にレベルアップし、大会で好成績を狙います!

兵庫医療大学

ますます活気が出てきました。

水泳部　代表　2年生　鈴木　香さん

現在23名で活動しており、毎週火曜日に神戸ポートアイランドスポーツセンターで練習しています。練習しているプールは試合も行われる公認プールなので、実践練習にも役立っています。各自、出場したい試合があればエントリーして出場しています。

部員は学年、性別に関係なく仲が良く、練習中もコミュニケーションがよくとれていて、楽しく活動しています。メンバーの要望はできるだけ実現できるよう、また全員が楽しく活動できるように心がけています。

今年7名の新入生が入部してくれました。昨年までは女子部員が多かったのですが、男子部員も増えてますます活気が出てきました。部員それぞれが目標を達成できるように、皆でがんばっていきたいと思います。

NEWS 2年生の鈴木香さんが、9月開催のインカレ（日本学生選手権水泳競技大会）の女子800m自由形に出場します！

星への興味を深めています。

天文サークル　代表　2年生　稗田　健登さん

現在43名が活動しています。毎週火曜日に4階のテラスや中庭で天体観測をしたり、長期休みには学外の天文台に合宿に行ったりしています。

メンバーは皆ノリが良くて明るく、積極的に活動していますし、メンバー間の仲もとても良いです。まだ星について詳しくない人にも、よく知っている人がわかりやすく説明するなどして、全員で楽しんでいます。また、星座にまつわる神話などのエピソードを調べたりして、星への興味を深めています。

最近は、松田学長が参加されて、一緒に土星の観測をしました。他の先生方も時々見学に来られるので、一緒に観測しています。

今後は、他大学の天文サークルとも交流を深めて、合同合宿などをしていきたいです。また、観測した天体の写真を掲示するなどして、天文サークル以外の人たちにも星に興味を持ってもらえたら、と思っています。

篠山病院存続

基本協定書に調印

来年度に新病院建設

協定書にサインし、握手を交わす酒井隆明篠山市長、井戸敏三県知事、新家哲平医大理事長（左から）＝神戸市、県公館で

兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定書の調印が14日、神戸市の県公館で開かれた。酒井隆明篠山市長、新家哲平同医大理事長、井戸敏三県知事が協定書にサインし、この日から10年間、同病院が地域医療の中核的な役割を担っていくことが正式に決まった。

大は来春から「篠山病院再生委員会」を設置して今後の体制の検討に入る。新病院は今年度中に申請手続きなどを終え、来年度に着工、完成する予定。（篠井　純）

1997年10月に同病院が公設民営に移管されて、昨年、国有財産法による10年間の運営期間が満了したことに伴い協定を結んだ。01年に医大が「篠山病院の赤字を約半分に圧縮する」などの条件を示すなど、医大は現在、「地域医療」を専門とした新病棟を篠山病院（篠山キャンパス）に開設する準備を教授会で進めており、「篠山病院へ医師派遣をしやすくなる環境づくりが今後の課題」としている。

藤田氏では、井戸知事が、「医大の存続が決まり、大変喜んでいる。丹波・篠山地域においては、県立柏原、柏原赤十字病院とも連携しながら地域医療を充実させたい」と協力を示唆した。

篠山病院の新院長に、再生委員会委員長となる福田医師（米国在住）が今年度中に就任する予定。医大は現在、「地域医療」を専門とした新病棟を篠山病院（篠山キャンパス）に開設する準備を教授会で進めており、「篠山病院へ医師派遣をしやすくなる環境づくりが今後の課題」としている。

藤田氏では、井戸知事が、「医大の存続が決まり、大変喜んでいる。丹波・篠山地域においては、県立柏原、柏原赤十字病院とも連携しながら地域医療を充実させたい」と協力を示唆した。

篠山病院の位置づけについて、「地域医療の中核を担う病院として運営・管理する」と明記、診療科目は「内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、小児科」で、13床から成る。

篠山病院の位置づけについて、「地域医療の中核を担う病院として運営・管理する」と明記、診療科目は「内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、小児科」で、13床から成る。

篠井市長は「市民の命と健康を守る篠山病院が存続することに、市民あげて心から感謝する。市長、医師会などの関係者にお願いする」と述べた。

酒井市長は「市民の命とどのような医療を目指すのか、市として、市立病院と連携しながら医師をつくっていく。市と医師会、市内3病院で作る「市救急医療体制運営委員会」を発足させ、体制を整える。

病院建設と運営補助などの総事業費は、篠山市で10年間に約40億2000万円、市の負担額は年1億8000万円で、うち9000万円は市内病院で配分する救急担当、救急隊員には1億4000万円を負担。ただし、うち1億6000万円は県が市に補助する。県は施設整備に6000万円、運営補助に2億6600万円を補助する。

病院建設の補助金は主に来年度に交付される。

篠山病院

3者協定締結

土地交換前提に存続

篠山市の兵庫医科大篠山病院について、同市と同大医科大（西宮市）、県が14日、基本協定を結び、同病院が今後10年間は存続することが正式に決まった。

3者は6月28日に、病院の建物で巻き起こる費用や運営費の負担割合について合意、さらに医大側が、病院が立つ敷地（医大所有地）と、建設する予定地（市有地）との等価交換を篠山市に求めていた。市は18年度以降の交換を前提に、市有地を新病院の管理に当たる08年度までに無償貸与することで合意した。等価交換するかどうかや、負担が発生した場合の支払額、現病院の取り壊し費用などについては今後協議する。

県公館（神戸市中央区）で調印式があり、医大の新家哲平理事長、篠井隆明市長、井戸敏三知事が協定書に署名した。

平成20年7月15日　朝日新聞社掲載記事

兵庫医科大学（西宮市）

学長インタビュー

患者の信頼得る医師を

地域医療の担い手育成

波田　壽一さん

平成20年7月27日　神戸新聞社掲載記事

SMBC 三井住友銀行

●西宮支店
〒662-0918　西宮市六湛寺町14-12
TEL　(0798)33-5271
窓口　平日 9:00～15:00
ATM　平日・土曜 8:00～23:00、日曜 8:00～21:00

●兵庫医科大学出張所（ATMのみ）
ATM　平日 8:45～19:00、土曜 9:00～17:00

Good Chemistry for Tomorrow 三菱ケミカルホールディングスグループ

67億の健康。
67億の未来。
未来へ広がる、無限の可能性。
田辺三菱製薬、動き出す。

田辺三菱製薬
www.mt-pharma.co.jp

健康と福祉に貢献する

医療機器・医用電子機器・衛生材料
アンギオ用カテーテル・内視鏡製品
整形外科用器械・病院設備全般

YAYOI Corporation 医療機器
株式会社 やよい
□本社／姫路市古二丁目町3番地　〒670-0836 ☎079(224)5151(代)　FAX 079(224)2024

GA

受注から、企画制作、印刷、パッケージ、そしてメーリングまで、
すべてを本社工場一ヶ所で行うオール一貫システム。

ゼネラルアサヒ　検索

http://www.generalasahi.co.jp/

本社	福岡県福岡市東区松田3丁目777番地	TEL 092-611-8311 FAX 092-621-0349
デジタルグラフィックス研究所	福岡県宗像市アスティ1丁目5番地	TEL 0940-34-1180 FAX 0940-34-1184
品川スタジオ	東京都港区港南1-6-34 東京日産港ビル1F	TEL 03-5715-1371 FAX 03-5715-1372
青山事業部	東京都港区北青山3－10－9 川島ビル8F	TEL 03-3400-0301 FAX 03-3400-0317
虎ノ門事業部	東京都港区虎ノ門4-1-10 神谷町青木ビル4F	TEL 03-5404-7341 FAX 03-3433-6170
名古屋営業所	愛知県名古屋市中村区黄金通1-7 フクタビル	TEL 052-459-0252 FAX 052-459-0253
関西事業本部	大阪府大阪市東成区玉津2-2-21 GA関西ビル	TEL 06-6972-4121 FAX 06-6974-6867
北九州事業部	福岡県北九州市小倉北区紺屋町13-1 毎日西部会館5F	TEL 093-531-5520 FAX 093-531-5560

azbil
人を中心としたオートメーション

アズビル　検索

http://jp.azbil.com

山武グループ　azbilは山武グループのシンボルマークです。

HOMEPAGE RENEWAL

ホームページが新しくなります！

兵庫医科大学、兵庫医科大学病院、学校法人の3サイトが9月から全面リニューアルオープンします。利用者が得たい知りたい情報にすぐにアクセスできるホームページとなるよう、また、常に最新の情報を提供できるよう取り組んでいきます。

新しいサイトURL

兵庫医科大学
http://www.hyo-med.ac.jp/

兵庫医科大学病院
http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/

学校法人
http://www.corp.hyo-med.ac.jp/

法人トップ画面

9月・10月の行事予定

9月

3日	兵庫医科大学	早期臨床体験実習(中央診療部門・学外診療施設)	
	兵庫医科大学病院	市民健康講座「頭痛について」	第3会議室／総合診療部　立花　久大教授
17日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「胃がんになる人、ならない人」	第3会議室／内視鏡センター　堀　和敏講師
	兵庫医療大学	早期臨床体験（看護学部）	
19日	兵庫医科大学	平成21年度大学院医学研究科入学試験（前期）	
20日	兵庫医療大学	地域連携実践センター公開講座「認知症の理解」	看護学部　大町　弥生教授
22日	兵庫医療大学	早期臨床体験（リハビリテーション学部）	
25日	兵庫医科大学	医学学術講演会	
27日	兵庫医療大学	第2回兵庫医療大学保護者懇談会	

10月

6日	兵庫医科大学	知的財産セミナー	4-1講義室
18日	兵庫医療大学	地域交流プロジェクト「高齢者を介護する人のための支援　第3回腰痛体操」	看護学部　大町　弥生教授・平木　尚美講師

学校法人兵庫医科大学　関連事業会社

（株）エイチ・アイ
各種業務受託、人材派遣、物品販売
Tel.0798-45-6656

(有)エイチ・アイ・サービス
損害保険、生命保険代理店
Tel.0798-45-6673

西宮市武庫川町1-1
兵庫医科大学10号館1F

http://www.hi-hyogo.com/hi.html

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

2008年8月号　vol.195
発行日／平成20年8月25日

発行／学校法人兵庫医科大学
広報室　広報課
兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL：0798-45-6655
FAX：0798-48-6261
E-mail：kouhou@hyo-med.ac.jp
http://www.hyo-med.ac.jp/

印刷・製本／株式会社ゼネラルアサヒ

ご子弟、ご親族、お知り合いの方に、薬剤師、看護師・保健師・助産師、理学療法士、作業療法士を将来目指されている生徒さんがおられましたら、是非「兵庫医療大学」をお勧めください。

平素は、兵庫医療大学の運営にご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。おかげさまで本学も今春2期生を迎え、ますます学内も活気づいてきています。

これから、3期生となる次年度入学生の募集活動が本格化する時期となり、本学教職員も学生募集に全力を挙げておりますが、兵庫医科大学および兵庫医療大学保護者の皆様、両大学教職員および兵庫医科大学OBの皆様ほか、関係各位におかれましても、是非とも本学学生募集に一層のお力添えを頂きたく、お願い申し上げます。

大学案内・入学願書セットをご希望の方には無料で送付させて頂きますので、下記までご連絡下さいますようお願い申し上げます。なお、兵庫医療大学在学生保護者の皆様には、間もなく大学案内・入学願書セットを送付申し上げますので、よろしくお願い致します。

薬学部医療薬学科（6年制）	入学定員150名
看護学部看護学科	入学定員100名
リハビリテーション学部	
理学療法学科	入学定員 40名
作業療法学科	入学定員 40名

学校法人兵庫医科大学
兵庫医療大学

〒650-8530 神戸市中央区港島1丁目3番6
TEL：078-304-3000（代表）
TEL：078-304-3034（願書請求／広報G）
FAX：078-304-2734（　〃　）
URL　http://www.huhs.ac.jp/